

メキシコ低地マヤ地域におけるカトリック的宗教文化統合の実証的研究 —マヤ・ユカテカの一カトリック村落マニの空間感覚分析のための序論的考察(3)—

A Study of Catholic Culture Integration of Lowland Maya Communities in Mexico
—An Introductory Study of Experimental Methods for Analysis of Space Perception
at the Individual Level of a Mayayucatecan Catholic Community, Mani—

中別府 温 和

この小論は、マヤ・カトリック社会を空間の視座から分析することを目的とする。空間の分析は集団の断面と個人の断面の両面から分析することが望ましい。

これまでマヤ・カトリック社会の聖堂、祈り、地縁・血縁、土地・家督を集団の断面で分析し、空間感覚に関する新しい事実を二三明らかにした。本稿では空間感覚を個人の断面で分析する調査方法を提示し、その方法にもとづく調査結果の一部を分析した。その概要は次のとおりである。

マニでは空間が神や神聖な存在に関係する場所を中心としてとらえられ、その場面では太古の要素をもつことばや象徴によって中心と外周というような濃淡をともなった色づけがなされる。

マニの人びとは場所に関してさまざまな現実を語るが、それらの現実には神聖な存在に関係する理念に結びつけられて立て直される (adjust)。また、場所は閉じているというよりも開かれたところとして意味づけされ、私有よりも共有、所有権よりも使用权という意味づけが強まる。

キーワード：宗教的文化統合、時間、空間、太古性、普遍性、内調整

目 次

はじめに

- I 個人の断面における空間感覚の分析
 - 1 空間感覚分析のためのモデル
 - 2 作業仮説
 - 3 空間感覚分析の具体的調査方法
- II 調査結果 (個別聴取調査の事例)

Ⅲ 個別聴取調査結果の全体像

おわりに

注

はじめに

これまで宗教的文化統合 (religio-cultural integration) という仮説的な考え方を検証してきた。この仮説は、宗教を社会・文化の中心に位置づける。そして、「宗教は社会・文化の或る部分を強く濃く、別の或る部分を弱く薄く色づけている」と考えてこれを分析するのである。宗教が人間の現実の暮らしのすべての面に濃くあるいは薄くしみ出し、社会・文化全体を規制し方向づけているとする作業仮説 (working hypothesis) である。

この仮説は、宗教の太古性、普遍性、理念性という三つの論点を前提としていると言えよう。つまり、宗教の古さ (太古のものごとを何千年という巨大な時間にわたって持続させる)、広さ (個や集団や国を超えて世界に広く開かれていく)、理念による立て直し (神や神聖な存在にまつわる理念や教えによって現実を構成する方法と態度をとる) の三論点である。

宗教的文化統合の考え方にもとづいて調査地マニの空間感覚を集団の断面で取り出すと、その全体像の概要は次のとおりである。なお、次に述べる内容はすべて筆者による調査結果にもとづいているので、根拠は本稿末尾の引用参考文献に一括して提示し、各事実についてそれぞれ根拠を明示することは割愛したことを予めお断りしておきたい¹⁾。

考古学・歴史学史料が示す古代の一事実は中心と四方 (五方) であり、この空間感覚は現在まで保持されてきている。マニのメン (*men* 呪医=祭司) はマヤの伝統の担い手であるが、そのメンの祈りと儀礼 (サカップ *sak'ap*) が中心と四方 (五方) 空間感覚を厳然と保持している。マニの人々はメンの祈りを理解し、メンと同じ仕方で *sak'ap* を行う。古代マヤの空間感覚をこの仕方で共有し分有しているのである。

マニではマヤの神話的空間を現実としてとらえている。マニの人々はメン (呪医=祭司) による儀礼慣習の意味を理解し、儀礼に参加する。と同時に、儀礼慣習と深く結びついている口頭伝承の意味をも理解し、その中味を現実にする。マヤの神々は、中心、四方、洞窟、井戸、自然などのマヤの空間に存在する。また、そのようなマヤ的な空間に古来存続してきた動植物に宿ると信じられている。

考古学・歴史学史料はマニにミルパ、カカオ栽培というマヤ伝来の農業に関係する共有地があった事実、また、使用权という思考を伴った共有地があった事実を記録している。この土地の共有という考え方は土地の絶対的な所有権よりもむしろ土地の使用权を保障するであろう。つま

り、土地は誰かに所有される前に公共財であり、それゆえに個人による土地の所有およびその権利は絶対的ではない。共有されるのが本来である土地は社会および公共の善 (bien común) のために用いられることを第一とする。

メキシコではこの考え方を基本として一定の範囲で土地の使用権を憲法で保障している。メキシコ憲法第27条は土地の共有という考え方を基本とする個人による土地使用権の社会的保障を次のとおり謳っている。

「国土の境界内に包蔵された comprendidas 土地と水との所有権 propiedad は、本源的に originariamente 国家に属する corresponede a la nación。」

この社会保障を現実に実行している実例がエヒード (ejido) である。エヒードによる土地使用の実情の一端を次に述べよう。

エヒードでの耕作を望む人たちは、集団を組織して土地の共有を前提に国から土地を受けとる。この土地を各自に割り当て個別に耕作する。割当地の面積はマニでは 1 H ~ 3 H である。その場合、土地の共有の考え方にもとづいて割当地は原則として売買および賃貸借の対象とはならない。つまり、土地の所有権をより絶対的と考えた場合のように、自分のためにそれを使用し、他人に利用させ、あるいは処分させる形で土地が割り当てられてはいないからである。また、この考え方を根拠として、2年連続して割当地で耕作しない場合は、その土地を集団が没収し、そこでの耕作を望む他の者に割り当てていく。古代の共有地の理念と今日のエヒードに関係する理念とが重なる面をもっているのである。

自己と集団および社会との距離という考え方から空間感覚をとらえると、祈りとコンパドラスゴにマニの人びとの空間感覚がしみだしている。

マニの人びとは、家庭祭壇での祈りと異なり、教会では個、家族、共同体を越えて世界の平和・安寧・幸福をも祈る。教会での祈りは、「すべてのキリスト教徒のために」「すべての人の健康 (salud) のために」「自分の幸福と自分の隣人の安寧を…頼んでいる」「すべての人に祝福が与えられるように」「家族と親しい人たち (queridos) のために頼んでいる」「病気の人たち全員の回復を頼んでいる」「病気の人、家族の者、問題を抱えた人たちのために頼んでいる」のように、祈りを捧げる対象が自分や家族を越えて共同体的・社会的・世界的な広がりをもっている。そして、その教会での祈りは、瞬間瞬間 (en todo momento) を神に生かされているという自覚にもとづいて捧げられる。教会を訪れて祈ると、ディオスの近くにいるために、祈りはディオスに届きやすいという思考がマニには存在する。この自覚と思考を前提とする祈りである。表面的で形式的な祈りによるのではない。マニの人々は、心の奥底を突き動かされながら、個、家族、共同体を越えて世界の平和・安寧・幸福を祈るのである。

マニの人びとの祈りを貫いている個を超えて社会や世界につながる空間感覚はコンパドラスゴにも見出すことができる。コンパドラスゴはカトリックの理念に基づく社会関係ネットワークである。洗礼、聖体拝領、堅信、15歳の祝い、婚礼などの通過儀礼の場面で、これらの儀礼を受け

る本人が実の両親とは違う人と親子の関係を結ぶ仕組である。この仕組によって、まず本人と擬制の両親との間に親子の関係（パドリナスゴ・マドリナスゴ）が成り立つ。この関係が成立した時、三者はそれぞれアイハード（代子）、パドリーノ（代父）、マドリーナ（代母）と呼ばれる。と同時に、本人の両親と擬制の両親との間に親同士の関係（コンパドラスゴ）が成り立つ。一人が通過儀礼場面だけでも10とおりの制度化された社会関係を結ぶ。その場面では本人の両親も同じく社会関係を結ぶ。本人と本人の両親とが築く20とおりの社会関係は一生つづく。

この多面的な関係は単に形式的なものではない。逆に、その後一生の間、関係する者たちの間に尊敬と社会経済的および道徳的な支援を義務とする関係を担わせる。したがって、この関係はマニの人々の現実の生活の中で重要な意味と機能を持っているのである。

コンパドラスゴは血のつながった現実の親子関係を越えるより開かれた社会関係である。また、この親子関係はこの世の親子関係を越えるあの世での親子関係である点でさらに開かれた関係である。

この大規模で多面的・重層的な社会関係ネットワークがマニの村全体の現実生活を動かしている。この社会関係ネットワークは人間関係を基盤とする空間である。個と家族・親族を超えて広く深く築き合う社会関係の空間といえる。この社会関係は有無を言わず個をより広い人間関係の空間の中に引きずり込む。

マニの物理的な空間に視点を転じると人びとの注意は村の中心と教会に集まる。マニの人々は教会を「神の家（la casa de dios）」と呼ぶ。「神の家」である教会は村落の中心に高く大きく聳え立ち他を圧倒している。水平ではなく天に向かって縦に延びている。この教会を中心に東西南北に小教区（6教区）、その小教区を中心に居住区域（barrio バリオ）、居住区域の周囲に耕地、耕地の周囲にさらに山野が展開する。その形状は教会を起点に放射線状であり、道路は碁盤の目状に走っている。

村落の中心に聳え立つ教会には広場、公園、役場、学校、交通手段の駐停車場が付設する。この教会およびその付設公共施設の建築空間はカトリック社会ではほぼ同じ様式で、高さや光をモチーフとしつつ放射線状、碁盤の目状、左右対称を特徴として開かれている。

内陣・身廊・側廊（袖廊）はイエスの身体を象徴的に表しているとする解釈もある。内陣を頭部、身廊を身体、側廊（袖廊）を腕と見なすのである。しかし、この解釈はマニにはない。パンと葡萄酒をそれぞれイエスの身体と血と解釈するだけである。教会全体は「神の家」と考えられている。

マニの人々はここで祈る。そしてミサに参加する。ミサはパンと葡萄酒という食事による象徴を通じて、イエス・キリストの死と復活を想起（anamnesis）する宗教行動である。何千年も昔のイエス・キリストによる救いを反復しくり返し現在に再現（representation）することである。

このマニの教会は聖像や絵画で溢れている。文字を読めない人あるいは書物を買うことができない人にも、具体的で分かりやすく教義やメッセージを伝えるための工夫である。カトリック教

会はいわゆる美術装飾によって宗教教育を行う空間でもある。キリスト像、磔刑像、聖母、聖徒、洗礼盤などに関する絵画および彫像が側廊、つまり、入口(西)から身廊を経て内陣に至る過程に陳列され、いわゆる『聖書』の役割を果たしている。ヴィクトル・ユーゴーの「中世には人間がおよそ重要だと思ったことで石で書き綴らなかつたものは何もない」の言にふさわしい開かれた空間である。エミール・マールはこれを「大聖堂は書物である。…信徒たちは人類であり、大聖堂は世界であった」と言った。

教会をめぐる空間感覚はカトリシズムに関係するが、と同時にマニにはこれとは異なるマヤの伝統的な考え方である村の中心、つまり *k'iwic* という空間感覚が存在しつづけている。マニで「村の中心(セントロ)はマヤ語で何と言うか?」と人びとに尋ねると、*k'iwic* とマヤ語が返ってくる。そして、「*k'iwic* はどこか?」との質問への答えは、ほとんどの場合、洞窟 (*actun*) とセイバの樹 (*yaxche*) を含む場所を含んでいる。

マニの *k'iwic* のセイバの樹は巨木である。セイバは聖なる木 (*el árbol sagrado*) とも言われている。その根は地下へ、幹は地上へ、樹は天に届くと考えられている。地下界・地上界・天上界の三層を象徴している樹なのである。同じく村の中心(セントロ)に聳える修道院・教会に対峙するかのよう生茂り、一目瞭然である。3 m ~ 5 m を越える幹は持て余すかのようにその根の一部を地表に露わにし、ごつごつ盛り上がったその根の上でマニの人々は憩う。

マニでは、8月15日から6日間、毎年フィエスタが行われる。この場面では闘牛 (*la corrida de toros*) が不可欠である。闘牛場は教会の広場に円形に築かれる。マニの人たちが自身でこれを築くが、この円形闘牛場の真ん中には必ずセイバの木を立てる。セイバの木を立てなければ闘牛は始まらない。これを行うのはフィエスタの主催者の一人と決まっている。本人は、山からセイバの木を切り出してきて、闘牛場の真ん中に立てる。この仕方ではセイバの木を立てなければならないのである。マヤの伝統が付着しているセイバの木には、中心・四方(五方)というマヤの空間感覚が古くから結びついている。

これらの事実は宗教と空間を集団の面でもとらえた結果である。宗教は集団によって共有され分有 (*participate*) されている。一人の宗教はありえず、宗教はつねに他との関係のなかで集団として営まれていく。

とはいえ、ここでわれわれの論究をやめるべきではない。なぜなら、共有と分有はさらに厳密に事象をとらえることを求めているからである。つまり、宗教が集団において共有され分有されている具体的な姿を個人の面でもとらえ直すことを求めているのである。

I 個人の断面における空間感覚の分析

同じ集団の中でも、また、同じ家族の中でも、個人の面でもとらえなおしていけば、そこには宗教に対する理解や態度の凹凸が見い出せると考えられる。その凹凸を取り出すことは、宗教による

意味づけのより具体的な姿および宗教による個人や社会の立て直しのより具体的な姿を発見することである。

この方法による結果は宗教のより深くより厳密な理解に結びつくと考えられる。人間に関する事象は、宗教も含めて、個別具体的には厳正に左右対称とか完全に平等とかはありえない。とすれば、個別の具体的な現実を踏まえつつ、集団による共有と分有の全体像をとらえることの方がより有効であろう。

1 空間感覚分析のためのモデル

空間を分析するためのモデルを作成するにあたっては、空間の概念に自然や土地のような物理的なものを含めることは無論であるが、ここでは人間集団も含めてこれを構成する。

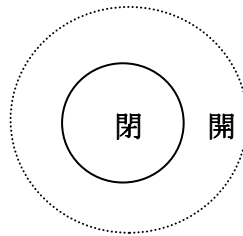
宗教は物理的環境とも密接な関係を保って営まれていくが、同時に人間集団とも同様の関係を保ちつつ営まれていくからである。つまり、宗教を個と集団との関係、集団と集団との関係の角度から考えることは空間という概念のもとでこれを試みても有効であると考えられる。

1) 連続／不連続

空間が開かれているか、閉じているかという視点である。

(1) 開かれている場合

個人、家族、集団、村境、国境を超えてより大きな空間あるいは異なる空間へ開かれている。



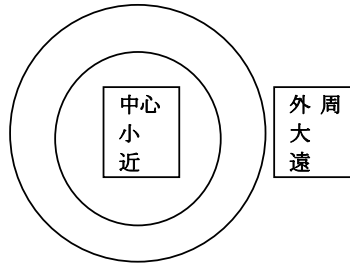
(2) 閉じている場合

空間や集団をめぐる境界の意識が強く、内と外というように区別する行動や態度が強い。身内／外人、山のもん／村のもん／海のもん、内圧／外圧、公／私、などのようなことばによって差異が生まれる。

2) 不均一

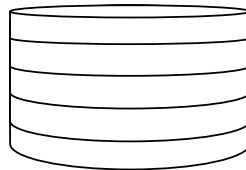
(1) 中心／外周

空間や集団は現実には均一ではない。例えば、どこかを立場として中心／外周、小さい／大きい、近い／遠い、里山／中山／奥山、点／線／面のように空間と集団を不均一にとらえる。



(2) 上/下・左/右・高/低・縦/横・前/後・東/西/南/北/中央

天上/大地/地下、川上/川中/川下、奥山/中山/里山/麓などのように空間が重層する。また、青龍/白虎/朱雀/玄武/中央などのように空間が分割される。

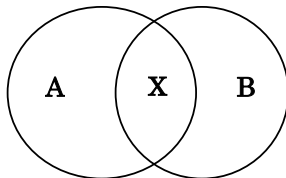


3) 帰属

リーチ (Edmund Leach) は、*Anthropological aspects of language: animal categories and verbal abuse* (1964) において、自己 (I) からみて人間 (A)、世界 (B)、動物 (C) を次のように分類している²⁾。

人間 (A) 自己 (I) 姉 妹 (II) ・イトコ (III) ・近隣 (IV) ・よそ者 (V)
 世界 (B) 自己 (I) 家 (II) ・耕 地 (III) ・原野 (IV) ・遠 方 (V)
 動物 (C) 自己 (I) ペット (II) ・家 畜 (III) ・獲物 (IV) ・野 獣 (V)

この分析をふまえてリーチは分析モデルを創る。



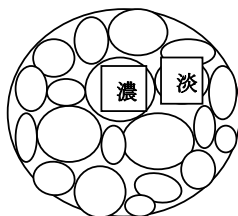
可	I・II	A
可/不可	III・IV	X
不可	V	B

二つ以上の空間および集団A Bが交通するとき、それらが交わる場面Xでは「AでもありBでもある」あるいは「AでもなくBでもない」両義的な性質をそなえた新しいものが生み出され、タブーがかけられ儀礼行為がXに集中する³⁾。

A	X	B
人	人・動物	人でないもの
動物でないもの	ペット	動物
飼育	獲物	野生

4) 非等質

空間や集団は現実には等質ではない。濃／淡・明／暗・新／旧・公／私・私有／公有などのように色づけがされる。



上述の4つの空間分析モデルを宗教事象の分析に適用する場面では、理念性を特徴とする空間把握を仮説とする。連続／不連続、不均一、帰属、非等質という視座からの空間把握は宗教的な理念を軸にしてなされると考えて分析するのである。

宗教は神や神聖な存在に生かされているという意識を伴う場合が多いことから、それらの存在にまつわる理念や教えによって現実を構成する (adjust) 方法と態度をとろうとする。例えば、この世のものはすべて神が創ったのであるからと考えて、天空・山川海・大地・地下などはこれを「もっと多く」「他人より多く」と所有するのではなく、むしろそれらをみんなで使用していくことに心を遣い行動する。つまり、矛盾と不合理を含む現実の複雑な事実を神や神聖な存在にまつわる理念や教えを根拠として組み立て直してとらえようとする方法と態度である。

2 作業仮説

4つの分析モデルにもとづいて具体的な作業仮説を立てる。

一定の操作によって設定された宗教度の強い人ほど、次のように空間をとらえる割合が大きいであろう。

- 1) 神や神聖な存在に関係する場所を中心として空間をとらえる。
 - (1) その場合に中心と外周というような濃淡をともなった色づけがなされるであろう。
 - (2) また、色づけや意味づけは太古の要素をもつことばや象徴でなされるであろう。
- 2) 場所の意味づけは神聖な存在との関連で行われる傾向をもつであろう。
 - (1) その場合、より古い要素 (マヤ的な要素) と古い要素 (カトリック的な要素) の両方

で多面的な意味づけがされるであろう。

- (2) また、場所に関してさまざまな現実が語られるであろう。そしてそれらの現実には神聖な存在に関係する理念に結びつけられて立て直される (adjust) であろう。
- 3) 世界的に開いている普遍的な言論や理念を使って空間を説明する。
 - (1) その場合に場所は閉じているというよりも開かれたところとして意味づけされるであろう。
 - (2) また、その場合に私有よりも共有、所有権よりも使用权という意味づけが強まるであろう。
- 4) 個や集団を超えて祝祭や行事に積極的に参加し、それらの意味を理解しようとする。
 - (1) その場合に家族や村境などを超えたつながりや連携が見い出されるであろう。
 - (2) また、祝祭や行事の行われる場所はより古い要素 (マヤ的な要素) と古い要素 (カトリック的な要素) の両方で多面的な意味づけがされるであろう。

3 空間感覚分析の具体的調査方法

調査は次の二つの方法で行っている。

1) 有意味図版質問紙

第1の調査は個人面談による聴取調査である。最初に、有意味写真6枚を提示して、それを自分にとって大事な意味を持つ順番に並べてもらう。次に、なぜその順番でならべたかの理由をできるだけ具体的に述べてもらう。写真は筆者によってⅠ 日常生活空間 (学校、役場)、Ⅱ 労働空間 (ミルパ、パルセーラ)、Ⅲ 宗教空間 (教会、祭壇) のように分類してある。ⅠⅡⅢのどれにより重要な意味づけが、どのようになされるのかを分析するための写真であり質問である。

2) 有意味図版質問紙

第2の調査も個人面談による聴取調査である。しかし、内容がより細かくなっている。第1の調査よりもさらに多くの写真を提示して、同じ質問をし同じように答えてもらう。14枚の写真全体は第1の調査のⅠⅡⅢと同じ分類であるが、それぞれが寄り多くの空間を含むことになるので、空間に関する個々人のとらえ方がより細かくなることが期待される。例えば、Ⅰには家屋敷や公園、Ⅱには山野や牧場、Ⅲには墓などがふくめられている。分析の視点と方法は第1の調査と同じである。

写真1 家庭祭壇



写真2 カトリック教会



写真3 ミルパ



写真4 パルセーラ



写真5 学校



写真6 広場



II 調査結果（個別聴取調査の事例）

調査結果の分析は、全体像の提示、全体像との関連における個別具体的な事例の提示、個別具体的な事例に表れた家族構成メンバー間の差異の提示の順で行う。ここでは、紙数の制約があることから、全体像と一家族の構成メンバーの事例を提示する。残った課題は別稿を期したい。

全体像は面談によって蒐集した内容を集約することによって提示する。一家族の構成メンバーの事例はドン・セッサル家10名(サンプリング1)から聴き取った内容である。これと対比する内容として、同一家族の構成メンバーではない10名(サンプリング2)から聴き取った内容を提示する。

1 サンプリング1 (ドン・セッサル家10名)

①Cesar Manuel Canul Coot	hombre	65 años	casado	campesino
②Silvana chan Mukul	mujer	64 años	casada	ama de casa
③Deysi Minerva Canul Chan	mujer	42 años	casada	ama de casa
④Jerry Lindon Perera Ku	hombre	45 años	casado	campesino
⑤Wilma Noemi Canul Chan	mujer	41 años	casada	ama de casa
⑥Juvencio Caamal Sulub	hombre	42 años	casado	hace bateas
⑦Amalia Canul Chan	mujer	34 años	casada	ama de casa
⑧Jose Antonio Canul Chan	hombre	32 años	soltero	campesino
⑨Jesús Salvador Canul Chan	hombre	28 años		
⑩Deysi Marbella Mukul Chan	mujer	26 años	casada	ama de casa

(1) 祭壇

祭壇は聖像を置き、灯と供え物を捧げ、聖像に対して祈るところである。すべての家が祭壇を持つが、聖像は幼子イエス (divino niño)、聖母マリア (Virgen María)、イエスの磔刑像 (crucifixión) を中心とする。この標準形から外れると、「灯が足りない」とか、「幼子イエスの像が足りない」というように言い表される。逆に、聖像が多すぎると、「祭壇に無数の聖像を持つことにはあまり賛成はしません」のような意見が寄せられる場合がある。聖像は自分の聖像あるいはそれぞれの家の聖像という言い方がされるが、人びとの現実の生活における奇跡体験と密接に関連し合っている。

聖像は祈りの対象であるが、また祈りを捧げる人に「神のことを思い出させてくれる (eso me recuerda)」「次第に神に向かわせてくれる (me dirijo mejor a dios viendo la foto)」「神にさらに近くにいるように感じさせる (es como estar más cerca de dios)」「家の中で神がわたしたちと一緒におられるように感じさせる (como si nos acompañara en casa)」。

また、「誕生から磔刑までのイエスを思い出すもの (como católicos veneramos imágenes que es como un recuerdo de jesus desde su nacimiento hasta su crucifixión)」でもある。

祭壇を教会とくらべて低く位置づける考えがある。「祭壇を手に入れるためには教会に入って

からでないといけない」とか、祭壇は「教会のためにある (para la iglesia)」「神の家の中にいることを思い出すためにある (para recordar en la casa de dios)」などの表現がこの考えに関係する。

- ④学校においてよりも教会において神の戒律を学びますから、教会は重要です。学校では子どもたちは善いことと悪いことを学びますが、教会では善いことだけを学びますから (en la escuela porque en la escuela los niños aprende lo bueno lo malo y en la iglesia solo lo bueno)。
- ⑤祭壇を手に入れるためには教会に入ってからでないといけない (entrar a una iglesia para llegar a un altar)。この祭壇には灯が足りません。
- ⑥夜が明けたときに祭壇に対して祈ります。なぜなら、聖像を祭壇に持っている (tengo mis imágenes) からです。聖像に信仰を抱いている (le tengo fe) からです。聖像の前で感謝いたします。わたしたちを護りお世話してくださること (protegernos y cuidarnos) に対して感謝します。また、収穫や成功を与えてくださることに対して感謝いたします。
- ⑦祭壇は神とヴィルヘンを賛美するところです (venera adiós a la virgen)。両親が亡くなったから、写真を飾って祈りを捧げている。神に感謝するために供え物をしている (se ofrenda para darles gracias a dios)。
- ⑧祭壇は聖像があるからです。また、教会のためにある (para la iglesia) からです。教会は必要ですから。この祭壇には灯が足りません。また、『聖書』(una Santa Biblia) があれば祭壇として十分です。
- ⑨祭壇はイエスとヴィルヘン・グアダルーベを象徴しています (el altar representa a Jesús y a la virgen de Guadalupe) から、わたしにとっての順番は最初です。この祭壇は十字架に磔にあったイエス・キリストの聖像がありません。
- ⑩わたしにとっては祭壇は二番目に大切です。なぜならば、カトリコとして、誕生から磔刑までのイエスを思い出すものとして聖像を崇拜するからです (como católicos veneramos imágenes que es como un recuerdo de Jesús desde su nacimiento hasta su crucifixión)。教会は最も重要な位置を占めています (la iglesia viene siendo la primordial)。なぜなら、それが神の家だからです (es la casa de dios)。
祭壇の絵には磔にあったイエス、悲しみのイエス (Jesús misericordia)、サン・タデオ (san judas Tadeo)、幼子イエスの聖像 (divino niño) が足りません。
- ⑪すべての家に祭壇を一つは持っています。祈るために使いますが、教会の方がより大切です (la iglesia es más importante)。なぜなら、すべての人たちがミサのために集まり、みなで一緒に祈るためにより大切です (para que toda la gente se reúna para misa y para rezar juntos)。この祭壇に足りないものはありません。それぞれ自分の聖像を崇拜しており、自分にできる範囲で自分の祭壇を作っていますから (cada quien venera a su Santo y hace su altar como pueda)。

⑨祭壇は神を象徴します。神の家の中にいることを思い出すために (para recordar en la casa de dios) です。この祭壇は立派です。

祭壇に無数の聖像を持っている家がたくさんあります (hay muchas casas que tienen un sinfín de santos)。わたしは神だけが存在しておられると信じておりますから (yo creo que hay sólo dios)、また、神の母はわたしにとっては一番重要ですから (su madre sería los más importantes para mí)、聖像をたくさん持つことにはあまり賛成はしません。

祭壇にある聖像を崇拜します。この写真を通じて神にお願いいたします (pedirle a dios a través de la foto)。この写真はわたしに神のことを思い出させてくれます (eso me recuerda)。また、この写真を見ているとわたしを次第に神に向かわせてくれます (me dirijo mejor a dios viendo la foto)。

⑩祭壇には聖像がありますから。それがあると神にさらに近くにいるように感じます (es como estar más cerca de dios)。家の中で神がわたしたちと一緒にいらっしゃるように感じます (como si nos acompañara en casa)。

祭壇と教会では同じように祈ります。家では祭壇で祈ることもできます。灯などをお供えすると、神は満足されます (dios está contento)。

(2) 教会

教会は「神の家です (la casa de dios)。そこには神がおられることをわたしたちは知っています (sabemos que está dios)」と語られる。「すべてのもののうちで最も大切である (más importante en todo)」から、「教会の中にいるときは他のところにいるときとは異なる (en la iglesia es diferente)」、また、「教会にいると気持ちがいい (se siente bien)」。

教会は「村になくてはならないもの (no debería faltar en un pueblo)」で、そこには「駆けつけて、父なる神に祈りを捧げなければならない (debemos acudir a hacer oraciones a dios nuestro señor padre)」。そして、また、「神に感謝しなければならない (a dar gracias)」。

教会に行つて中に入ることが大切という。「教会に行つて中に入らないと、行かなかったようなものである (no te acercas es como si no fuiste)」。教会の中に入って祈ることが重要なのである。教会の中で祈ることによってはじめて、「神の存在を感じる (sientes en ese momento la presencia de dios)」あるいは「神の近くにいると感じる (siento que estar cerca de dios)」。「キリストのお体を受けとめるように感じる (lo recibimos el cuerpo de Cristo)」。

そして、神の家でイエスに対して祈ることによって、自分の問題を話す (rezamos le platicas mis problemas en su casa de dios)」。

教会は自分の「いろいろな問題について神に一人で打ち明け (entro a la iglesia y con mucha fe pedirle a dios o sólo platicarles mis problemas)、それまでよりは気持ちよくなって教会を立ち去

る (salgo sintiéndome mejor)」ところである。

教会でのミサでは、「神の喜びを感じて、また、神からわたしたちが受ける祝福を感じて (al sentir la alegría de dios y la bendición que recibimos de él)、心が満足する気がする (me siento contenta)」。ミサに出ているときは気持ちがいいし満足しているので (se siente bien, contenta)、「考えることすべてが喜びである (todo lo que piensas es alegre)」という。

①聖像に祈るために行きます。聖像に会うために教会の中に入ります (entro a la iglesia para ver a las imágenes)。そして祈ります。聖像に祈りを捧げるために教会に行くときは (cuando vas a la iglesia a rezar a las imágenes) このようにして祈ります。なぜなら、教会に行って中に入らないと、行かなかったようなものです (no te acercas es como si no fuiste)。

教会の中に入るのは神に祈るためです。最初に幼子イエスと聖霊 (espíritu santo) の名前を言います。このように祈ります。神のためだけに祈ります。

②最初が教会で次が家で祈るための祭壇

③どんな聖堂にも教会があってそこで祈ります。教会はわたしたちに喜びを与えます (nos da alegría)。教会で祈っているとき、神の存在を感じるでしょう (sientes en ese momento la presencia de dios)。わたしは神の近くにいます (siento que estar cerca de dios)。わたしはキリストのお体を受けとめるように感じます (lo recibimos el cuerpo de Cristo)。

④聖なる教会においてわたしたちは洗礼を受けます (nos bautizan)。行動原理がわたしたちに教えられる (nos enseñan los principios) ところです。わたしたちにとっては大変重要なところです。なぜなら、神父がわたしたちにそれを教えてくれる (lo nos enseñan nuestros padres) ところだからです。なぜなら、わたしたちがイエスに対して祈るところだからです (ahí oramos a Jesús)。神の家で祈り、わたしの問題を話します (rezamos le platicas mis problemas en su casa de dios)。

⑤教会は神の家 (la casa de dios) です。ミサのため (para la misa) にあります。

ミサでは気持ちがいいです。なぜなら、祈りに行く (voy a orar) からです。わたしたちはみんな聖人に対して祈ります (rezamos a todos los santos)。わたしたちが働くのを援けてくださるように、と。わたしたちは食べていかなければなりませんから。

⑥祭壇の聖像が最初ですので、教会は二番目です。最初に聖像が来て、次が聖堂です。たまにミサに行きます。神に感謝して、またヴィルヘン・グアダルーベに祈りを捧げます。

⑦教会はわたしにとっては神の家を意味します (la iglesia significa para mí la casa de dios)。

村になくってはならないもの (no debería faltar en un pueblo) です。わたしたちは教会に駆けつけて、わたしたちの父なる神に祈りを捧げなければなりません (debemos acudir a hacer oraciones a dios nuestro señor padre)。そして、また、神に感謝しなければなりません (a dar gracias)。

⑧教会が最初です。なぜなら、教会は神の家 (la casa de dioses) ですから。すべてのもののうちで最も大切です (más importante en todo)。そしてすべてのことをなされるでしょう (hára todos)。なぜなら神がすべてをご覧になっていますから (él lo ve todo)。

教会にいと気持ちがいいです (se siente bien)。わたしはときどき一人でミサに行くのですが (a mí en la personal a veces voy a misa o solo)、一人で教会の中に入り、たくさんの信仰を抱いて神にお願い、わたしのいろいろな問題について神に一人で打ち明け (entro a la iglesia y con mucha fe pedirle a dios o sólo platicarles mis problemas)、それまでよりは気持ちよくなって教会を立ち去ることがあります (salgo sintiéndome mejor)。神はどこにでも存在しておられます (dios está en todas partes)。教会の中にいるときは他のところにいるときは異なります (en la iglesia es diferente)。なぜならミサのあるときはたくさんの人たちの間で祈りが捧げられますから (se reza entre mucha gente porque hay misa)。

⑨教会によってわたしは神を心に思い浮かべます (por la iglesia me representa a dios)。神は命、健康、知恵をわたしたちにお与えになりました (da vida, salud y sabiduría)。神はわたしにとっては最も大切です (para mí es lo más importante)。ミサではわたしは神の喜びを感じて、また、神からわたしたちが受ける祝福を感じて (al sentir la alegría de dios y la bendición que recibimos de él)、心が満足する気がします (me siento contenta)。

また、教会の中では、すべての人の健康と仕事 (pido por todo salud, trabajo)、それにわたしの子どもたちのことをお願いいたします。

⑩なぜなら教会は神の家 (la casa de dios) だからです。そこには神がおられることをわたしたちは知っています (sabemos que está dios)。神にわたしたちが必要とするものを授けてくださるように祈りながらお願いいたします。ミサに出ているときは気持ちがいいですし満足します (se siente bien, contenta)。考えることすべてが喜びです (todo lo que piensas es alegre)。

(3) ミルパ

ミルパは日々の食べ物を与えてくれるところである。「ミルパがあるから自分たちは生きていく (de ahí vivimos)」のである。そして、このことは神の援けによるものであるととらえられている。

「神が時節の恵みの雨を降らせてくださる (si diosito permite una buena temporada de lluvia) ならば、それのおかげで今日もわたしたちは生きていくことができる」「そこにわたしたちが食べていけるようにトウモロコシの種を播くようにと、神がわたしたちのためにミルパを創ってくださったのだ (dios lo creo para nosotros para que sembremos la milpa y para comer)」のように語られる。

①なぜならミルパからはトウモロコシが獲れますし、わたしたちに食べ物を与えてくれますから。パルセーラでも食べるための果物が獲れます。ミルパがパルセーラよりも重要な理由はカボチャ、フリホール、サツマイモなどが獲れるからです (puede producir muchas cosas como calabaza, ibes, frijol, camote, etc)。なぜなら、パルセーラでは収穫し、それを売ってお金を稼ぎます。衣服や靴などいろいろなものを買うためにです。

ミルパのための土地は十分あります。問題はありません。なぜならたくさんの人たちがミルパで働いているからです。

②なぜなら、ミルパはわたしたちが食べていくことができるために手に入れます。なぜなら、ミルパはただトウモロコシのために大切です。

③ミルパはエローテ、フリホール、カボチャの種を播くところです。今頃はミルパで収穫があります。マニのような村ではすべての人がトルティーヤを食べます (en el pueblo toda la gente como tortillas)。今はミルパの値段が高く手に入れるのが難しいです。わたしたちはミルパを持っていますから、トウモロコシが獲れます。ですから、買わなくてもトウモロコシを食べることができます。家畜にも食べさせます (así como animales de la casa y también con la cria)。飼育をするのにトウモロコシを食べさせるのです。ですから、多くの努力が要りますけれども (con mucho esfuerzo)、ミルパは非常に大切です。

④ミルパがあるからわたしたちは生きています (de ahí vivimos)。なぜなら、神が時節の恵みの雨を降らせてくださる (si diosito permite una buena temporada de lluvia) ならば、それのおかげで今日もわたしたちは生きていくことができますから。

⑤ミルパは季節的な労働だけ (sólo temporal) を行います。ですからパルセーラの方がミルパよりも大切です。なぜなら、パルセーラでは年中種を播くことができますから。パルセーラをよりよくするためには手入れ (limpiarlo) をしなければなりません。ミルパについてですが、わたしたちは今はミルパを持っていません。なぜなら、わたしの夫は別の仕事をしていますから。また、最近パルセーラでたくさんの収穫がありませんから (no se logra mucho la cosecha)。

⑥ミルパは重要です。トウモロコシの種を播いてトルティーヤにして食べるために収穫します。そこにわたしたちが食べていけるようにトウモロコシの種を播くようにと、神がわたしたちのためにミルパを創ってくださったのです (dios lo creo para nosotros para que sembremos la milpa y para comer)。ミルパには水があった方がいいので、できれば井戸を備える必要があります。わたしはミルパを持っていませんが、ミルパを持ちたいです (me gustaría tenerlo)。

⑦ミルパを持つこと、ミルパで働くことは大切です。なぜなら、ミルパはエローテを播種することについていえば他の所より肥沃です。雨の時期に播種しますが、雨が降らないと収穫がありません。

ミルパには是非播種しなければなりません。なぜなら、エローテはわたしたちがミルパからトウモロコシを収穫して生きていくことができるために、わたしたちにとってなくてはならない

ものだからです (el elote es algo indispensable para nosotros para poder vivir de ahí el obtiene el maíz)。

- ⑧ミルパはトウモロコシを生産することができるから重要です。トウモロコシはトルティーヤのためにあります。ここではトルティーヤはわたしたちにとって毎日の暮らしの礎です (la tortilla es lo básico de todos los días)。

ミルパについてはシステムを変える必要があります。なぜなら、森林がなくなるからです (nos vamos a quedar sin bosque)。いつか森林を必要とする日がくるでしょう。ですから、同じ土地でいろいろな収穫を得るような働き方にもどる必要があります (volver a trabajar el mismo suelo varias cosechas)。

- ⑨ミルパからわたしたちはわたしたちの暮らしに欠かせないトルティーヤのためのトウモロコシを収穫します。なぜなら、そのことは神のおかげとわたしは教わります (me enseña que es la gracias de dios)。

- ⑩ミルパは神のおかげです (milpa es gracias a dios)。ミルパを通じてトウモロコシを獲ることができます。わたしたちの食べ物です。父は以前にはわたしたちをミルパに連れていってくれましたが、わたしのように大人になると父を手伝うために父を連れてミルパに行きます。

(4) パルセーラ

パルセーラは井戸および灌漑施設をそなえることから、安定して働くことができる場所としてとらえられている。ミルパとくらべると、より多くの種類の作物、特に柑橘類と野菜類が播種できるので、一年中また長期にわたって安定して生産できる、つまり、商業活動ができる場所と語られるのである。ここでの労働によって得られる金銭は生活に必要な物資と交換されるからである。

パルセーラを得るためには労力と経費がかかるが、いったん入手するとミルパでのトウモロコシ、豆類の収穫を日々の糧に、パルセーラでの収穫物を換金して日常の生活費にあてることができるのである。「パルセーラがないと、そして仕事がないと、本当に困る (sin parcela y sin profesión es muy difícil)」と語られる。他に仕事がなくとも、パルセーラを持っていれば、「靴や衣服その他のものが買える」。

現在、安定した仕事がなく、パルセーラを持っていない人は、「パルセーラを持ってそこで働きたい (me gustaría tenerlo y trabajarla)」と願う。

- ①井戸がありますけれども雨の方がいいのです。今年はよくありません。雨が降りません。ミルパでも同じです。ミルパには井戸がありませんから雨が降らないとすべてがだめになります。
- ②パルセーラは時々安定していません。値段が安定していないと、安定しないのです。

- パルセーラには元手が要りますが、いい仕事ができますし、より多くを生産することもできます。以前からパルセーラで一生懸命働いてきました。灌漑をし、いろいろなものの播種をしながら。
- ③パルセーラは大切です。なぜなら、最初の頃は手を入れるために赤ちゃんのようにたくさんの労力を必要としますが、後になると少しずつではありますが売ることのできる収穫物や食べ物ができるようになります。パルセーラがないと、そして仕事がないと、本当に困るでしょう (sin parcela y sin profesión es muy difícil)。すべてのことと同じように、最初は困難が伴うのです (así es como todo principio es muy difícil.)。たとえ少しであっても、フリホールや卵がないと困ります。食べるためのものですから。
- ④パルセーラに家族は依存していますから、パルセーラは大切です。わたしの家族みんなが生きていくために、パルセーラに種を播き、収穫をします。わたしは他に仕事がないので、わたしにとってパルセーラは非常に重要です。なぜなら、パルセーラがあるから、靴や衣服その他のものが買えるのです。
- ⑤パルセーラは大変骨の折れるところ (muy trabajoso) です。わたしはパルセーラには行きませんから、よく知りません。
- ⑥パルセーラは重要ですしすばらしいです。パルセーラでわたしたちは果物、野菜などの種を播き、そして食べるために収穫することができます。わたしはパルセーラを持っていませんが、パルセーラを持ちたいですし、そこで働きたいです (me gustaría tenerlo y trabajarla)。
- ⑦パルセーラで働くことは重要です。なぜなら、パルセーラから、例えば果物、野菜類、エローテ、ミカン類などを収穫してわたしたちは生きることができるからです。パルセーラは井戸 (posos de aguas) が整備されているので、さまざまな種類の果物や野菜類を栽培できるので重要です。
- ⑧パルセーラがミルパよりも重要です。この二つはどちらが重要かを定めることは難しいです。なぜなら、パルセーラもミルパもとても重要だからです。ですが、わたしはパルセーラの方が重要と考えます。なぜならば、以前はミルパからだけ収穫がありましたが、現在は井戸の整備されたパルセーラで生産することができるからです (ahora se puede hacer en la parcela con riego)。
- ⑨パルセーラもまた重要です。家族の生活の糧になる果物や野菜の種を播き、お金を得るためにです。
- ⑩パルセーラは午後に行って播種し、水をやり、果物類を収穫することができます。なぜならパルセーラでは午後に仕事ができるのです。

(5) 学校

学校は子どもたちの教育のための源泉 (lago fundamental) で、子どもたちが読み書きを学び「よ

りよい将来を築いていく (tendrán un mejor futuro) ところ」である。

学校で学ぶことと教会で学ぶことは異なる。教会はキリスト教の教育のためにあり、「宗教について学び続けなければならない (la iglesia es la educación cristiana que debemos seguir en cuanto a la religión)」。他方、学校は例えば教員や医者として仕事を得るためにさまざまなことを修得するための教育をするところと語られる。

学校では、教会における同じように、いい教育方法をとらなければならない。こどもの学ぶ動機を育てていかなければならない。両親は子どもたちの注意が教育に向けられるように子どもたちの生活態度を規則正しく保つべきである。そして、いい教員を採用し、両親からの支援と行政からの支援をもっと増やし、子どもたちが「学校はすばらしいところだとわかるように (se vea bonito)」するところと考えられている。「教員が自分の時間を十分に学校に捧げていない (os maestros no le dedican bien su tiempo)」現状があるので、教員が学校の教育に打ち込むように気をつけてよく見ていなければならない (nosotros lo tenemos que ver)。

- ①学校に足りないことはありません。時々言うことをきかなかったり喧嘩をする生徒たちに教員は上手に教えなければなりません。教会と同じです。神父が人々に言ってきかせたり読んでやったりするとき、人々はそこから出て行ったり神父の言うことをきかなかったりするのと同じです。酒を飲んでいる人がたくさんいます。それはもう教会ではありません (no es la iglesia)。今の神父は戒律を守っていません。
- ②学校は学ぶためにあります。学校は学ぶためにありますが、役場は学校を援助します。子どもたちが勉強することができるためにです。教員の教え方がよくなければ、子どもたちはよく勉強することはないです。
- ③学校はわたしの子どもたちの将来のために (para el futuro de mis hijos) 大切です。学校があるおかげでわたしの子どもは学びます。いつの日かよりよい将来を繰り広げるでしょう (tendrán un mejor futuro)。
- ④学校は読み書きを学ぶところです。学校でたくさんのことを学びます。しかし、わたしたちは小学校の2年までしか勉強しませんでした。両親は子どもたちの注意が教育に向けられるように子どもたちを監視するべきですし、子どもたちの生活態度を規則正しく保つべきです。
- ⑤学校は大切です。なぜなら、学校がなかったら何も学ぶことができません。学校をよくするためにはいい教員を連れてきてすべての子どもの教育を良くすることです
- ⑥学校は子どもたちが学ぶために大切です。また、子どもたちは学校に通うのをやめないように奨学金を受けます。
- ⑦学校は子どもたちの教育のための源泉 (lago fundamental) です。なぜなら、教会はキリスト教の教育のためにあり、わたしたちは宗教について学び続けなければなりません (la iglesia es la educación cristiana que debemos seguir en cuanto a la religión)。学校は例えば教員や医者と

して仕事を得るためにさまざまなことを修得するための教育をするところです。学校では他の言語を教えることが不足していますし、勉強の時間が足りません。

- ⑧学校は三番目に大切です。なぜなら、みんな学校で学ぶからです。読み、書き、計算を子どもの頃から学ぶからです。読み書きを知らないと、何もすることができません (no puedes hacer nada)。

学校には教員の資質といい模範 (capacitación a los maestros y mejores reglas) が不足していると考えます。もしわたしが教員ならばもっとましな教え方をするでしょう。生徒たちが修得するまで降参しません (no darme por vencido hasta que aprendan)。職員に対して十分投資することが大切ですけれども、管理はしっかりする必要があります。なぜなら成果が出ているかどうかを知らなければなりませんから。お金があっても浪費したのでは何にもなりません。

- ⑨学校は読み書きを学ぶための教育をするところですから。

子どもたちを学校に行かせます。いい教員を採用し、両親からの支援と行政からの支援をもっと増やすことです。子どもたちに学校はすばらしいところだとわかるように (se vea bonito)、また子どもたちに学校で学ぶ動機もよくわかるようにするためにです。

- ⑩学校はわたしたちが見たり言ったりすることを読み書きすることができるように学ぶところです。学校を良くするためには、教員が自分の時間を十分に学校に捧げておりません (os maestros no le dedican bien su tiempo)。わたしたちは教員がそうするかどうかを良く見ていなければなりません (nosotros lo tenemos que ver)。

(6) 広場

広場は経済的援助を申請するところである。そこには村長と警察がいるだけで「何も教えてはくれない (no te enseña nada)」。広場は「どうしてもなくてはならないものではない (no es algo tan indispensable)」。そこは「俗世間である (el mundismo)」。経済的な機関があり、娯楽やいろいろなお祝いや活動をするところではあるが、「それだけで、それ以上は何もない」「精神的な意味で見べきものは何もない (no tiene nada que ver con lo espiritual)」 「他のことのように重要な意味は持っていない (no tiene tanta importancia como los otros)」のように語られる。

- ①学校では学びますが、広場では村長と警察がいるだけで何も教えてはくれません (no te enseña nada)。パルセーラへの援助を申請するか値段を半値にすることを申請するか、このような援助を人々にしてくれます。

- ②広場は援助を申請するためにあります。

- ③広場は最後ですが重要です。援助を請うためのところです。時々、争いがありますけれども。わたしの家では6カ月ごとにメリダに行かなければなりません。そこで時々そのための援助を

請います。50～100ペソの生活費援助を受けるときがあります。何もしないでいることはできません。みんな一人ひとりが行政には責任があります (cada quien se responsabiliza)。

④広場は何かあることを申請するところです。ある支援を受けるために援助を申し出るところです。行政を良くするためには、例えば、政治腐敗をなくさなければなりません (quitar a los corruptos)。たくさんの方の約束する前に以前はみんな収賄をしていました。今は収賄はありませんが、時々、なされることがあります。誓約を果たさないときがありますが、忘れているのです。みんなが自分の能力を使いきるようにわたしたちを援助しなければならない (nos ayudan como debería que sean todos pierden su poder) 。

⑤広場です。すべての村に広場があります。わたしたちが出かけていくために、また、いろいろなお祝いや活動をするために広場があります。どのような援助であれ問題であれ、村長に援助を申し出ます。例えば、メリダに行くときや医薬品が要るときです。行政は政策次第です。最近行政が真剣に受けとめられています (se toman mucho a pecho)。わたしたちを援助してくれるかどうかを見守ります。なぜならわたしたちはPRIである彼に投票したのですから。

⑥広場の役場は村にはなくてはならないものですが、わたしは信任をしていません。わたしにとっては重要ではありません。わたしは自分の責任で働きます。

⑦広場は村がどのような村であるかを表しますから多少は大切です。わたしたちが何らかの援助を申請するために、あるいはわたしたちが買うことができない医薬品などを購入してもらうために、広場には地方自治体や連邦の機関を置くことができます。また、村長をどのようにして選ぶかを知るためにも重要です。

⑧広場はどんなことであれどんな問題であれ、また必要な何かに対する援助を申請するために駆けつけるところです。順番としては最後です。なぜなら、わたしにはどうしてもなくてはならないものではない (no es algo tan indispensable) からです。

よい政治が必要です。何人かの村人たちだけでなく村を援助するために経験を積んだ成熟した政治を行うことです。なぜなら村では良い行政が行われるべきですし、すべての金は村のためのものであり村長のためのものではありません。

⑨広場は俗世間 (el mundismo) です。経済的な機関がありますし、娯楽を引き受けてくれますが、それだけです。それ以上は何もありません。精神的な意味で見ると見るべきものは何もありません (no tiene nada que ver con lo espiritual)。他のことのように重要な意味は持っていません (no tiene tanta importancia como los otros)。

行政をよくするためには、選挙に参加し、いい推薦がされたいい人を選ぶことです。村長は道路、標識、学校、地域、公共施設を整備するような人物であるべきです。

⑩問題を抱えたら、役場に駆けつけて援助を申請することができます。病気とかなにかの場合ですがいつもではありません。村長がわたしたちのためにやってくれていることはまだ十分ではありません。ときどきは援助してくれますが、ときどきは援助してくれません。職員が仲間割

れているためにみんな一緒ではありません。

1 サンプリング2 (無作為抽出 10名)

①Bernarda Beatriz Gongora Mejia	mujer	64 años	soltera	cocinera
②Maria Rosalia Gongora Mejia	mujer	49 años	casada	maestra
③Evagelina Del Carmen Campos Cetina	mujer	52 años	casada	ama de casa
④Nidia Guadalupe Gongora Campos	mujer	26 años	casada	maestra
⑤Bertha Maria Jimenez	mujer	34 años	soltera	secretaria
⑥Emilio Lopez Hernandez	hombre	34 años	casado	atiende una tienda
⑦Karina Tuz Tzab	mujer	34 años	casada	ama de casa
⑧Teodoro Canul Cot	hombre	78 años	casado	campesino
⑨Ambroncio Balam Be	hombre	47 años	casado	campesino
⑩Miguel Tzab Chi	hombre	70 años	casado	campesino

(1) 祭壇

祭壇は聖像 (la imagen) があるところである。自分の聖像を持ち (tengo mis imágenes)、各家の聖像を持つ (para tener santos en cada casa) という意味で特別な場所である。そして、特別な場合に、祭壇の前に集まって祈る (en ocasiones especiales nos reunimos para rezar)。「ある聖人のための特別な日には、祭壇の方が好きである (cuando es un día especial a algún santo si me gusta el altar)」のように語られる。

祭壇は「神の存在の一つの証拠 (una prueba de la existencia de dios)」でもある。なぜなら、祭壇の聖像に「奇跡を頼む (pedimos un milagro) とそれが与えられる」し、「すべての危険から守ってもらえる (nos protegen de todo peligro)」。

祭壇は教会とは違う。教会は「すべての人たちのために (para todo la gente)」あり、反対に祭壇は「家族 (familiar) のために」ある。祭壇は「収穫物の初穂 (para ofrendarle a dios algo de primicias con cosecha de la agricultura)」を捧げ、神を賛美し、儀礼を捧げるところである。また、「死んだ家族の者たち (los familiares fallecidos)」に収穫物を捧げるところでもある。

家庭に祭壇があることが重要なのは、そこは「神がおられるところ (tener la presencia del señor)」であり、「子どもたちが小さい頃から神を賛美することを学ぶところ (los niños aprendan desde pequeños que hay que alabar al señor)」だからである。「神がすべてを与えてくださっていること、わたしたちにすべてを与えてくださっていることに感謝するために神を賛美しなければならないこと (hay que alabar al señor que nos da todo, para agradecer al señor todo lo que nos

da)」を学ぶところだからである。この意味で、家族は「神に対して収穫を供えるために、また、神が家族に食べ物を与えてくださることに対して感謝するために」あるという。

また、「祭壇の聖人に祝福を頼まなければならない (se le pide la bendición)。教会だけでは十分ではない (no estaría completo)」という考えもある。

①祭壇です。小さい頃は祭壇が重要であることがわかりませんから、祭壇で祈ることはありません (no le importa de un altar ya no lo adoran)。ですが、大きくなると祭壇が重要であることが分かるようになってきます (cuando está grande uno lo va entiendo)。

イエスやヴィルヘン・デ・マリアの聖像 (la imagen) がありますから、わたしは祭壇が好きです。この祭壇に足りないものはありません。全部あります。支えもしっかりしています。聖像もあります。暦の中にはありますが。

②自分にとって特別な場所です。わたしは祭壇にわたしの聖像を持っています (tengo mis imágenes)。神や聖母や聖人の聖像 (de dios, de la virgen y de los santos) をそこに持っています。そしていつも灯をつけて、花やローソクを飾ります。特別な場合に、祭壇の前に集まって祈ります (en ocasiones especiales nos reunimos para rezar)。

③祭壇はわたしたちが収穫したものを供えるためにあります (nos sirve para ofrendar lo que cosechamos)。供え物をするところですし、神を賛美するところ (un sitio para ofrendar y alabar a dios) です。教会と祭壇の違いは、教会はすべての人たちのため (para toda la gente) にあり、反対に祭壇は家族 (familiar) のためにあります。

④祭壇は聖像を崇拜するところです。聖農夫イシードロ (San Isidro Labrador) にわたしたちの収穫のことをお願いします。

⑤祭壇はわたしたちの神を祝い賛美するために、また儀礼を捧げるためにあります。家庭に祭壇があることが重要なのは、そこは神がおられるところ (tener la presencia del señor) であり、子どもたちが小さい頃から神を賛美することを学ぶところ (los niños aprendan desde pequeños que hay que alabar al señor) だからです。神がすべてを与えてくださっていること、わたしたちにすべてを与えてくださっていることに感謝するために神を賛美しなければならないこと (hay que alabar al señor que nos da todo, para agradecer al señor todo lo que nos da) を学ぶところだからです。家族は神に対して収穫を供えるためにあります。神がわたしたち家族に食べ物を与えてくださることに対して感謝するためにあります。

家庭祭壇は収穫の初穂を神に捧げるため (para ofrendarle a dios algo de primicias con cosecha de la agricultura) にあります。また、死んだ家族の者たち (los familiares fallecidos) に収穫を捧げるためにあります。

⑥祭壇です。それぞれの家で聖人を持つために (para tener santos en cada casa) です。そのためには祭壇を作らないといけません。教会と祭壇はとても大切です。教会は祭壇よりも大切です

す、なぜなら神の家ですから (es la casa de dios)。

⑦祈る (adorar) ために大切です。

祭壇が好きだからです。ヴィルヘン・デ・グアダルーペ、聖心 (el Sagrado Corazon 槍で貫かれたキリストの心臓) を置いて、それらに祈りを捧げます。これはどこにでもある祭壇ですが、灯と聖像 (una veladora y más imágenes) が足りませんが、祭壇の上に置かれているものが少なくてかまいません。

⑧わたしたちにとって何よりも大事なものは祭壇である。はじめに神があり、その後わたしたちがあるのだから (primero está dios, luego nosotros)。

⑨祭壇の聖人に祝福を頼まなければならない (se le pide la bendición)。教会だけでは十分ではない (no estaría completo)。イエス・キリストの像にも祝福を頼まなければならない (pedir)。

⑩神の存在の一つの証拠 (una prueba de la existencia de dios) である。なぜなら、そこに奇跡を頼む (pedimos un milagro) とそれが与えられるし、すべての危険から守ってもらえる (nos protegen de todo peligro)。

(2) 教会

教会は「神の家 (la casa de dios)」であり、「聖体において (en la eucaristía) イエス・キリストと出会う (encontramos)」ところである。「神が第一 (dios es primero)」であるから、教会は「一番大切」である。「神に会うところ (donde se encuentra dios)」であり、教会から人びとを祝福し、「すべての危険から自由に (nos libra de todo peligro)、すべての悪から自由に (nos libra de la maldad)」にしてくださいるのであるから、「神父をとおして神の御言葉を聴くために神の家を訪問しなければならない (nosotros debemos ir a visitar la casa de dios para escuchar sus palabras a través del sacerdote)」。

教会は「人々が集まる場所 (el lugar donde se reúne la gente)」であり、「神の祭壇が村のためにある場所 (donde está el altar de dios para la comunidad)」とあってよい。教会は「一人で祈る家であり、また、みんなで祈る家 (casa de oración individual y comunitaria)」である。

教会は「神がそこにおられる (dios está presente)」ところであるから、「イエスが授けてくださっていることすべてに対して祈りを唱え (orar y rezar por todo lo que Jesús nos a dado)」、「感謝の気持ちを感じる (me siento agradecido)」のである。

教会でのミサに出席すると、「気持ちがよくて心が安らぐ (siento bien, tranquila)」。「神のことばを聴き、神の言われていることを理解し、どのように生きていかなければならないかを理解する (escuchar la palabra de dios, y entiendo lo que dice, cómo me debo llevar)」。この意味で、教会は「精神的に育まれる (nos formamos espiritualmente)」ところであり、「保護されているように、平和の中にあるように感じる (en la iglesia me siento protegido y en paz)」ところである。教会

は「神に会い精神的に立ち直るための第一の場所 (un lugar principal para encontrar a dios y sanar espiritualmente)」という。つまり、「誰も隣人に対して罪を負っているから (hemos pecado contra nuestros semejantes)、自分たちのその罪を赦してくださるように神に頼む大事な場所 (un lugar importante para pedir perdón por nuestros pecados)」ととらえられているのである。

このような教会であるから、そこには「駆けつけなければならない (debemos de acudir a la iglesia)」

教会は日々の仕事にも深く関係する。教会ではいい収穫が与えられるように神の祝福を頼むことから、「いい収穫があったならば、どのようなものであれ、初めての収穫を教会に持って行き (una vez cosechada alguien product debemos llevar las primicias a la Santa Iglesia)、そのような収穫があったことに対して、神に感謝する (para agradecerle a dios su apoyo al tener una buena cosecha)」と語られる。

①教会です。神の家 (la casa de dios) です。わたしたちは祈るためにここに行きます (vamos a orar)。神ですから最初です (ya que dios es primero)。

②教会が最も大切です。なぜなら、聖体において (en la eucaristía) イエスと出会う (encontramos) からです。わたしたちは集まって祈ります。そして、わたしたちの健康と家族の安寧を神に請います。わたしたちの仕事や神がわたしたちに与えたもうたすべてのこと (por nuestro trabajo y por todo lo que nos ha dado) へ感謝します。教会はわたしたちが精神的に育まれる (nos formamos espiritualmente) ところです。

③教会には駆けつけなければならない (debemos de acudir a la iglesia)。わたしたちのミルパのために神にお願いするために。

④教会です。神の家ですから。神がそこにおられます (dios está presente)。わたしたちは教会に出かけて神にお願いします。

イエスがわたしたちに授けてくださっていることすべてに対して祈りを唱えます (orar y rezar por todo lo que Jesús nos a dado) ので感謝の気持ちを感じます (me siento agradecido)。イエスのために、ヴィルヘンのために祈ります。ある聖人のための特別の日には、祭壇の方が好きです (cuando es un dia especial a algún santo si me gusta el altar)。わたしの祭壇には聖人がすべてそろっておりません。

⑤教会が一番大切です。なぜなら、神が第一 (dios es primero) だからです。教会は人々が集まる場所 (el lugar donde se reúne la gente) ですし、神の祭壇が村のためにあるところ (donde está el altar de dios para la comunidad) です。教会は一人で祈る家ですし、みんなで祈る家です (casa de oración individual y comunitaria)。

⑥教会です。信仰のためです。教会では保護されているように、平和の中にあるように感じられ

ます (en la iglesia me siento protegido y en paz)。

⑦教会は祭壇よりも大切です。わたしにとってはミサが大切だからです。

ミサに出席していると、気持ちがよくて心が安らぎます (siento bien, tranquila)。神のことはを聴き、神の言われていることを理解し、どのように生きていかなければならないかを理解します (escuchar la palabra de dios, y entiendo lo que dice, cómo me debo llevar)。

⑧神に会い精神的に立ち直るための第一の場所 (un lugar principal para encontrar a dios y sanar espiritualmente) です。わたしたちの隣人に対して罪を負っているから (hemos pecado contra nuestros semejantes)、わたしたちの罪を赦してくださるように頼む大事な場所です (un lugar importante para pedir perdón por nuestros pecados)。病気のときに神の祝福を頼む場所です。

⑨いい収穫を与えてくださるようわたしたちの仕事に対して神の祝福を頼むところです。いい収穫があったならば、どのようなものであれ、初めての収穫を教会に持って行きます (una vez cosechada alquier product debemos llevar las primicias a la Santa Iglesia)。そして、そのような収穫があったことに対して、神に感謝するのです (para agradecerle a dios su apoyo al tener una buena cosecha)。

⑩神に会うところ (donde se encuentra dios) です。ここからわたしたちを祝福してくださる。すべての危険から自由にしてください (nos libra de todo peligro)。すべての悪から自由にしてください (nos libra de la maldad)。わたしたちは神父をとおして神の御言葉を聴くために神の家を訪問しなければならない (nosotros debemos ir a visitar la casa de dios para escuchar sus palabras a través del sacerdote)。

(3) ミルパ

ミルパは「日々の暮らしの食べ物を収穫するところ (el alimento de todos los días de nuestra vida)」であり、「食べ物の基礎」であるトウモロコシを収穫するところである。

そしてミルパでの収穫は「神の祝福がなければありえない (sin la bendición de dios la cosecha no se logra.)」と語られる。科学技術が進展しているけれども、「父なる神の恩寵のおかげで、神が自分たちの収穫を援けてくださっているから、食べ物が与えられる (con la gracia de nuestro señor nos ayuda con la cosecha con eso nos alimentamos)」のである。

ミルパを耕し、そこで収穫があると、それを食べるのが通例である。が、収穫の一部を売って、他の食べ物を買う (venden también para comprar otros alimentos)」こともあるし、その「お金を貯める (haciendo nuestra milpa nos ahorramos dinero)」こともある。

①わたしたちの食べ物を収穫するためにあります。ミルパが先です。なぜならば、ミルパがある

からトルティーヤ、フリホール、カボチャが獲れるのです。その次がパルセーラです。この時期はたくさんの果物は獲れませんから。

②ミルバも大切です。わたしたちの食べ物を与えるところだからです。しかし、神の祝福がなければ、収穫はありません (sin la bendición de dios la cosecha no se logra.)。

③ミルバはわたしたちの暮らしの毎日毎日の食べ物 (el alimento de todos los días de nuestra vida) を与えてくれます。

ミルバの方がパルセーラよりも大切です。なぜなら、毎日の食べ物であるトウモロコシ (nuestro alimento diario) と二番目 (にしたパルセーラ) で獲れる柑橘類を与えてくれるからです。

④科学技術がずいぶん進歩して長年が経ちます。父なる神の恩寵のおかげで、神がわたしたちの収穫を援けてくださいますので、わたしたちは食べ物を与えられます (con la gracia de nuestro señor nos ayuda con la cosecha con eso nos alimentamos)。トウモロコシを与えてくださることに対して神に感謝します。食べ物や他のものを買うためにトウモロコシを売ります。

⑤食べ物の基礎はトウモロコシです。なぜなら、わたしたちの村ではトルティーヤ、フリホール、カボチャ、トマトですから。これらが食べ物の基礎です。マニでは種を播いた畑は年中天水待ちです。

⑥ミルバです。わたしたちも父もミルバで働くことはありません。トウモロコシを収穫するためにミルバを持つことは大切です。

パルセーラは年中収穫があります。わたしたちはリモン、ミカン、アグアカテなどを収穫します。ミルバはしかしある限られた時期だけ、つまり雨が降る時期だけか、水をやる時期だけ (sólo es un tiempo cuando hay lluvia se riega sólo) 収穫があります。トウモロコシは年中収穫があるわけではありません。わたしは毎日トルティーヤを食べますから、ミルバはとても大切です。なぜなら、ミルバがなければ、トウモロコシが育ちませんし、トルティーヤもありませんから。

⑦ミルバを耕したいときミルバを持つことを求めます。わたしの父はミルバを持っています。女性はミルバでは働きません。ミルバとパルセーラは二つとも収穫をするために大切です。ミルバを持っていると、トウモロコシができてエローテの収穫ができますし、トルティーヤ、マサ、アトーレを作ることもできて助かります (el maíz es para ayudarnos para la cosecha de elotes y para hacer las tortillas, masa y atole)。

⑧毎日の食べ物であるトウモロコシを収穫するところだからわたしにとってとても大切です。ミルバを耕しながら、わたしたちはお金を貯める (haciendo nuestra milpa nos ahorramos dinero)。豆を買うためにです。

⑨家族はいつもトウモロコシを食べるからミルバを持っています。そこで働いて収穫があると、そこで働いた人たちがそれを食べます。あるいはそれを売って、他の食べ物を買うのです

(venden también para comprar otros alimentos)。ミルパで働かなくてもトウモロコシを買うお金を持っている人たちはトウモロコシを食べることができます。

- ⑩トウモロコシの種を播き、トウモロコシを収穫し、毎日の食べ物であるトルティーヤにしておいしく食べます。

(4) パルセーラ

パルセーラは柑橘類が獲れるところであるが、食べ物として「トウモロコシのようにどうしても不可欠ということではない (no están muy indispensable para la alimentación como es como el maíz)」。パルセーラでは果物や野菜が獲れるので、「それだけたくさん働かなくてはならない (más trabajo cosechar estos productos)」。また、パルセーラでは「ミルパよりもたくさんのお金が手に入るので経済の足しになります (se recompense económicamente ya que la parcela produce más ganancias)。つまり、柑橘類を売って「家族を支えるための経済的な足し (ayuda económicamente para el sustento familiar)」 「家計を賄う足し (para vender para conseguir el gasto familiar)」にするのである。

ミルパで獲れた「トウモロコシを売って少しお金を貯めながら、パルセーラで働くことができる (ahorrando un poco de dinero con ganancias de la venta de maíz se puede trabajar la parcela)」ことから、ミルパだけで働くよりもしばしばたくさんのお金が入り暮らしもよくなるという。

- ①パルセーラはわたしたちのための食べ物のためにあります。
- ②パルセーラは柑橘類が獲れるところですが、食べ物としてトウモロコシのようにどうしても不可欠ということではありません (no están muy indispensable para la alimentación como es como el maíz)。柑橘類を売って家族を支えるための経済的な足し (ayuda económicamente para el sustento familiar) にします。
- ③パルセーラはカボチャのような毎日の食べ物である柑橘類が獲れるから大切です。
- ④パルセーラはたくさんありますが、トウモロコシは植えません。柑橘類を播種しますから。その方が収穫が多いのです。今は灌漑用の井戸もありますし、ホースなどよりも簡単に水をやることができます。ですからパルセーラが増えているのです。果物が獲れるとどこかにそれを売りに行きます。
- ⑤伝統的な播種の方法を井戸で補足することによって、今ではマニで柑橘類、アマダイダイ、ミカン、カボチャ、キュウリを播種できるようになりました。他の食べ物も井戸ができたことによって播種していますし、家族の食べ物のために必要なもの他にも手に入れることができるようになりました。
- ⑥パルセーラです。果物を収穫するために、パルセーラを持つことはよいことです。果物を食べ

たいときはそれをちぎって食べます。わたしの父はパルセーラを持っていますから、ときどき果物を収穫するのを手伝います。ただ、小さい子どもの頃はパルセーラで働くことはありませんでした。

- ⑦果物ができますが、わたしはパルセーラを持ってはいません。父が持っています。パルセーラでの収穫物、例えば、リモン、ミカン、アグアカテなどを売りますが値段が安いのです。ですから、今では、以前ほどパルセーラで収入を得ることはできません。
- ⑧トウモロコシを売って少しお金を貯めながら、パルセーラで働くことができます(ahorrando un poco de dinero con ganancias de la venta de maíz se puede trabajar la parcela)。トウモロコシよりもしばしばたくさんのお金が入ります。すると暮らしもよくなる。
- ⑨ミルパにはパルセーラがつづきます。ここでも食べ物が増えるからです。人間として毎日食べていくものを十分にしてくれます。ここでは果物や野菜が増えます。だから、それだけたくさん働かなくてははいけません(más trabajo cosechar estos productos)。ここではミルパよりもたくさんのお金が手に入るので経済の足しになります(se recompense económicamente ya que la parcela produce más ganancias)。
- ⑩いろいろな果物や野菜を植えて食べます。また、それらを売って家計を賄います(para vender para conseguir el gasto familiar)。

(5) 学校

学校は読み書きをならうところである。読み書きができないと『聖書』を読むことができない。『聖書』や秘蹟(los sacramentos)がいうとおりに従うべきである(tenemos que obedecer así como nos dice la Biblia)ことから、神のことは聴きに、日曜日ごとにミサに行き、「キリスト教の教えを理解しなければならない(hay que entender lo que dice el evangelio)」そして「キリストの教えがわたしたちにいうことを分かち合う(compartir lo que nos dice el evangelio)」べきである。この意味で学校は教会とは異なると語られる。

学校は法を教え、わたしたちの権利を教え、社会におけるわたしたちの立場を教えるところである。したがって、学校に支援をし、教えるのが上手な教員を探して育てることが大事である。なぜならば、何も知らない教員(maestros que no saben nada)がいるから。学校を「いつも清掃して綺麗にし(tiene la escuela siempre limpia)」、そこにコンピュータを設置することも必要である。なぜならば、現代は科学技術の時代であるから。

また、「母親が子どもたちへの教育を大切と考えていない(las mamás no le dan importancia en su educación)」ので、学校に行かない子どもたちを支援し、経済的な援助を得られない子どもたちを支援しなければならない。子どもたちは「経済的な理由から家の手伝いをしなければならない(el niño necesita trabajar para ayudar a la familia económicamente)」ので、みんなが学校に通

えるわけではないという。

成人にとっても学校は大切であるが、子どもたちにはもっと大切と語られる。大人よりも「恵まれた暮らしができるように (tengan una vida mejor que la nuestra)、困ったことがたくさん起こらないように (no pasen tantas necesidades)」学校を活用することが望ましいという。また、「学校を大切と思わないし、勉強もしない (otras no le dan importancia a la escuela y no estudian)」人たちがいるとの指摘もある。

学校ではどのようによく生きるかは教えてくれないから、教会へ行くべきだと語る人もいる。

①学校は読むことを習うために行きます。わたしたちが読むことができないなら、『聖書』を知ることができません、神を知ることはできません (si no sabemos leer no podemos conocer la Biblia para conocer a dios.)。

父親への援助が必要です。なぜなら、最近では15歳から18歳くらいの男の子はとて若くして結婚します。このようなどても若い人たちを援助しなければなりません。以前は25歳を過ぎた頃に結婚していたのですから、最近とは違って。とて若い人が結婚したときは、父親か義理の父親の家と一緒に暮らすべきです。若くして結婚した人たちは生きていくところを持たないのだから (ya no tienen a dónde ir a vivir)。

最近では野蛮な行為が多くなりました。大人たちが麻薬をする (se drogan) からです。そして自分より年下の若い者たちに麻薬を与えているからです。こんなふうにして悪習に身を墮落させ始めている (empieza a recaer el vicio) のです。

カトリコであるべきです。わたしたちは『聖書』や秘蹟 (los sacramentos) がわたしたちに言うとおりに従うべきです (tenemos que obedecer así como nos dice la Biblia)。神のことばを聴きに行くべきです。日曜日ごとにミサに行くべきです。キリスト教の教えを理解するべきです (hay que entender lo que dice el evangelio)。そしてその教えがわたしたちに言うことを分かち合うべきです (compartir lo que nos dice el evangelio)。このようにしてカトリコやプロテスタントであるべきです。

②大切なところです。わたしたちの将来のために準備をする (preparando para nuestro futuro) ところです。

③学校は子どもたちが学ぶ所として非常に大事ですから、学校に対してはよく注意し世話をしなければなりません。そのためには学校に支援をするように要求をすること (se encarga de cuidar la escuela)。子どもたちを援助し教育をしてやるのが学校をよりよくすることです。

④学校は大切ですが、最近では収穫にいくことを優先する人たちがいます。子どもたちにかかるお金が手に入るからです。ですから、最初はミルパとパルセーラで最後に学校が来ます。役に立つ必要なものを手に入れるためにです。

⑤学校を通じてわたしたちは学びますし、教育を受けます。学校は法を教え、わたしたちの権利を

教えるところです。社会におけるわたしたちの立場を教えるところです。

村の人たちはより多くの支援を受けています。子どもたちが勉強しないでいることのないようにです。また、村の近くの町のより進歩した学校に通う機会を与えられています。なぜならば、マニには幼稚園、小学校、中学校しかないからです。勉強でもっと上をめざすためには他所の村に行くしかありません。

- ⑥学校です。学ぶために、立派な教育を生み出すために (para crear una buena educación) 大切です。マニの教育に必要なことは、教えるのが上手な教員を探して育てることです。なぜならば、何も知らない教員 (maestros que no saben nada) がいますから。それから、学校をいつも清掃して綺麗にし (tiene la escuela siempre limpia)、そこにコンピュータを設置することも必要です。なぜならば、現代は科学技術の時代ですから。
- ⑦いい教育のためにあります。わたしたちはマニの教育を支援しなければなりません。母親が子どもたちへの教育を大切と考えていない (las mamás no le dan importancia en su educación) ので、学校に行かない子どもたちを支援し、経済的な援助を得られない子どもたちを支援しなければなりません。
- ⑧子どもたちが大きくなって、学校で読み書きをするといいのですが、教材が高いのと、子どもたちは経済的な理由から家の手伝いをしなければならないので (el niño necesita trabajar para ayudar a la familia económicamente)、みんなが学校に通えるわけではありません。
- ⑨わたしたちにも大切ですが、子どもたちにはもっと大切です。わたしたちよりも恵まれた暮らしができるように (tengan una vida mejor que la nuestra)、困ったことがたくさん起こらないように (no pasen tantas necesidades)、学校を活用することがいい。
- ⑩麻薬などをしないで勉強する人は、いい仕事に就けてよいが、その他の人たちは学校を大切と思わないし、勉強もしない (otras no le dan importancia a la escuela y no estudian)。

(6) 広場

広場は家族の者の健康と何か必要なものを請い願うところである。つまり、行政が自分たちのために何かあることを解決してくれるように頼みに行くところである。「村長の証明や制裁を必要とするいろいろな問題を解決し (para resolver problemas)」、「村が申し分なく平和であり、住民の間に尊敬の念が育まれるように (para que el pueblo viva en perfecta tranquilidad y haya respeto entre sus habitantes)」。

自己本位を捨てて村のために善いことをするところである。広場は村のために善いことをなすことによって、あるいはまた村に割り当てられた財源を公正に運用することによって、「自分の自己本位が親切に変わることを証明する (demuestra su egoísmo a su bondad)」ところと語られる。また、広場は法を尊重し裁判を行うところであり、フィエスタと踊りをするところである。

役場は「村で一番権威のあるところ (donde se encuentra la máxima autoridad de un pueblo)」であり、そこでの義務は「貧しい家族に経済的な支援を与えること (darle una ayuda económica a las familias muy humildes)」である。しかし、「貧しい人たちのことは忘れて (olvidándose de los pobres)」不正な政治が行われる。

- ①広場はフィエスタ、踊りをするところです。村長に用事があるときは、行って援助を請います。または、ある病気にかかったときも行って援助を請います。それぞれの村長が村の女性たちのためにいい考えを持っているのですから、行政をより良くするために一生懸命に仕事をすることです。現在の政治はたくさんの恨みが残る政治です。それぞれの政治の後に (la política de ahora hay mucho rencor después de cada política)。
- ②広場は村役場の行政をするところです。わたしにとっての順番は最後です。どのように生きてきたかを振り返ると順番はそのようになります。教会や学校の方が先になります。広場は村のために善いことをなすことによって、あるいはまた村に割り当てられた財源を公正に運用することによって、自分の自己本位が親切に変わることを証明する (demuestra su egoísmo a su bondad) ところです。
- ③広場は行政がわたしたちのために何かあることを解決してくれるように頼みに行く所としてあります。行政は村のために善いことをしなければなりません。
- ④学校では汚れた子どもたちに会いますが、両親がミルパに行って子どもたちの食べ物を得るために働くからです。自然災害が起こったとき、みんなが役場に援助を申請しますと、役場は子どもたちに対して小額の援助をしなければなりません。そうしないと子どもたちは時々栄養失調になりますから。行政をよくするためにわたしたちがしなければいけないことは、マニは悪い状態にありますから、人々が必要とする活動をすべきですし、人々が必要とする商品を与えるべきです。また、道路と広場をきれいに整備し、人々が何を必要としているかを見るために村を歩くべきです。マニは歴史のある村でたくさんの人たちが訪れますから村をもっと魅力的にするべきです。
- ⑤家族の者の健康と何か必要なものを請い願うためにです。広場は行政を行うため、また法を尊重し裁判を行うためにあります。行政をよくするためには、行政を行うのにふさわしい資質を持った人物を探すことです。役場の職員は村に奉仕する人です。市民の福祉のために国、市、村を良くするために奉仕する人です。自分自身の利益のためにはありません。なぜなら政府を乱用することになるからです。
- ⑥役場です。村長がいるところです。役場の行政はわたしたちを人間として扱って支援するような村長 (buscar al presidente que nos ayude como persona) を見つけることです。お金を与えるためにだけであっては (no sólo por dinero que dan) いけません。わたしたちが行うことに同意する立派な人間は誰かを見出すことが大事です。わたしがいつの日か村長になったら、わ

たしはすべての人を援助するでしょう。

- ⑦わたしにとってはそれほど大切ではありません。なぜなら、道路を整備しない、道路に灯を付けない村長がいるからです。マニの行政をよくするためには、村長と話をして村にとって必要なことを村長に言うべきです。
- ⑧村長の証明や制裁を必要とするいろいろな問題を解決するための場所です (para resolver problemas)。村が申し分なく平和であり、住民の間に尊敬の念が育まれるように (para que el pueblo viva en perfecta tranquilidad y haya respeto entre sus habitantes)。
- ⑨村で一番権威のあるところです (donde se encuentra la máxima autoridad de un pueblo)。ここでの義務は貧しい家族に経済的な支援を与えることです (darle una ayuda económica a las familias muy humildes)。行政は農夫に多大な補助を行っていますが、時々、村長がそれを配るのです。しかし、その時、それを必要としない人たちに、例えば、コンパードレや友だちにも (compadre o amigo de él) 配るのです。貧しい人たちのことは忘れて (olvidandose de los pobres) このようにしてしまう。
- ⑩マニのことを尊重する人たちは村長を持っていないかのようです (parece que no tiene presidente)。
- なぜなら、村長は自分に持ち込まれる問題を解決することができないからです。村役場は裁きを下すところであり、村の人たち自身の間で起こる問題を解決するところ (donde se hace justicia y se resuelven problemas entre las mismos habitants del pueblo) なのですから。

III 個別聴取調査結果の全体像

個別聴取調査結果の全体像は各写真に関して次のとおりである。

(1) 祭壇

祭壇は聖像 (la imagen) を置き、灯と供え物を捧げ、聖像に対して祈るところである。自分の聖像を持ち (tengo mis imágenes)、各家の聖像を持つ (para tener santos en cada casa) という意味で特別な場所である。そして、特別な場合に、祭壇の前に集まって祈る (en ocasiones especiales nos reunimos para rezar)。「ある聖人のための特別の日には、祭壇の方が好きである (cuando es un día especial a algún santo si me gusta el altar)」のように語られる。

聖像は自分の聖像あるいはそれぞれの家の聖像という言い方がされるが、人びとの現実の生活における奇跡体験と密接に関連し合っている。祭壇は「神の存在の一つの証拠 (una prueba de la existencia de dios)」でもある。なぜなら、祭壇の聖像に「奇跡を頼む (pedimos un milagro) とそれが与えられる」し、「すべての危険から守ってもらえる (nos protegen de todo peligro)」。

すべての家が祭壇を持つが、聖像は幼子イエス (divino niño)、聖母マリア (Virgen María)、イエスの磔刑像 (crucifixión) を中心とする。この標準形から外れると、「灯が足りない」とか、「幼子イエスの像が足りない」というように言い表される。逆に、聖像が多すぎると、「祭壇に無数の聖像を持つことにはあまり賛成はしません」のような意見が寄せられる場合がある。

祭壇は教会とは違う。教会は「すべての人たちのために (para todo la gente)」あり、反対に祭壇は「家族 (familiar) のために」ある。祭壇は「収穫物の初穂 (para ofrendarle a dios algo de primicias con cosecha de la agricultura)」を捧げ、神を賛美し、儀礼を捧げるところである。また、「死んだ家族の者たち (los familiares fallecidos)」に収穫物を捧げるところでもある。

祭壇を教会とくらべて低く位置づける考えがある。「祭壇を手に入れるためには教会に入ってからでないといけない」とか、祭壇は「教会のためにある (para la iglesia)」神の家の中にいることを思い出すためにある (para recordar en la casa de dios)」などの表現がこの考えに関係する。

また、「祭壇の聖人に祝福を頼まなければならない (se le pide la bendición)。教会だけでは十分ではない (no estaría completo)」という考えもある。

家庭に祭壇があることが重要なのは、そこは「神がおられるところ (tener la presencia del señor)」であり、「子どもたちが小さい頃から神を賛美することを学ぶところ (los niños aprendan desde pequeños que hay que alabar al señor)」だからである。「神がすべてを与えてくださっていること、わたしたちにすべてを与えてくださっていることに感謝するために神を賛美しなければならないこと (hay que alabar al señor que nos da todo, para agradecer al señor todo lo que nos da)」を学ぶところだからである。この意味で、家族は「神に対して収穫を供えるために、また、神が家族に食べ物を与えてくださることに対して感謝するために」あるという。

聖像は祈りの対象であるが、また祈りを捧げる人に「神のことを思い出させてくれる (eso me recuerdas)」「次第に神に向かわせてくれる (me dirijo mejor a dios viendo la foto)」「神にさらに近くにいるように感じさせる (es como estar más cerca de dios)」「家の中で神がわたしたちと一緒にいるように感じさせる (como si nos acompañara en casa)」。

また、「誕生から磔刑までのイエスを思い出すもの (como católicos veneramos imágenes que es como un recuerdo de Jesús desde su nacimiento hasta su crucifixión)」でもある。

(2) 教会

教会は「神の家です (la casa de dios)。そこには神がおられることをわたしたちは知っています (sabemos que está dios)」と語られる。「聖体において (en la eucaristía) イエス・キリストと出会う (encontramos)」ところである。「神が第一 (dios es primero)」であるから、教会は「一番大切」である。「すべてのもののうちで最も大切である (más importante en todo)」から、「教会

の中にいるときは他のところにいるときとは異なる (en la iglesia es diferente)」、また、「教会に
いると気持ちがいい (se siente bien)」。

「神に会うところ (donde se encuentra dios)」であり、教会から人びとを祝福し、「すべての危
険から自由に (nos libra de todo peligro)、すべての悪から自由に (nos libra de la maldad)」し
てくださるのであるから、「神父をとおして神の御言葉を聴くために神の家を訪問しなければなら
ない (nosotros debemos ir a visitar la casa de dios para escuchar sus palabras a través del
sacerdote)」。

教会は「人々が集まるところ (el lugar donde se reúne la gente)」であり、「神の祭壇が村のため
にあるところ (donde está el altar de dios para la comunidad)」といてよい。教会は「村にな
くてはならないもの (no debería faltar en un pueblo)」で、そこには「駆けつけて、父なる神に
祈りを捧げなければならない (debemos acudir a hacer oraciones a dios nuestro señor padre)」。
そして、また、「神に感謝しなければならない (a dar gracias)」。

教会は「一人で祈る家であり、また、みんなで祈る家 (casa de oración individual y
comunitaria)」である。「イエスが授けてくださっていることすべてに対して祈りを唱え (orar y
rezar por todo lo que Jesús nos a dado)」、「感謝の気持ちを感じる (me siento agradecido)」の
である。

教会に行って中に入ることが大切という。「教会に行って中に入らないと、行かなかったような
ものである (no te acercas es como si no fuiste)」。教会の中に入って祈ることが重要なのであ
る。

教会の中で祈ることによってはじめて、「神の存在を感じる (sientes en ese momento la
presencia de dios)」あるいは「神の近くにいると感じる (siento que estar cerca de dios)」「キリ
ストのお体を受けとめるように感じる (lo recibimos el cuerpo de Cristo)」。

そして、神の家でイエスに対して祈ることによって、自分の問題を話す (rezamos le platicas mis
problemas en su casa de dios)」。教会は自分の「いろいろな問題について神に一人で打ち明け
(entro a la iglesia y con mucha fe pedirle a dios o solo platicarles mis problemas)、それまでよ
りは気持ちよくなって立ち去る (salgo sintiéndome mejor)」ところである。

教会でのミサでは、「神の喜びを感じて、また、神からわたしたちが受ける祝福を感じて (al sentir
la alegría de dios y la bendición que recibimos de él)、心が満足する気がする (me siento
contenta)」。ミサに出ているときは気持ちがいいし満足しているので (se siente bien, contenta)、
「考えることすべてが喜びである (todo lo que piensas es alegre)」という。

ミサに出席すると、「気持ちがよくて心が安らぐ (siento bien, tranquila)」。「神のことばを聴き、
神の言われていることを理解し、どのように生きていかなければならないかを理解する (escuchar
la palabra de dios, y entiendo lo que dice, cómo me debo llevar)」。この意味で、教会は「精神的
に育まれる (nos formamos espiritualmente)」ところであり、「保護されているように、平和の中

にあるように感じる (en la iglesia me siento protegido y en paz)」ところである。教会は「神に会い精神的に立ち直るための第一の場所 (un lugar principal para encontrar a dios y sanar espiritualmente)」という。つまり、「誰しも隣人に対して罪を負っているから (hemos pecado contra nuestros semejantes)、自分たちのその罪を赦してくださるように神に頼む大事な場所 (un lugar importante para pedir perdón por nuestros pecados)」ととらえられているのである。

このような教会であるから、そこには「駆けつけなければならない (debemos de acudir a la iglesia)」。

教会は日々の仕事にも深く関係する。教会ではいい収穫が与えられるように神の祝福を頼むことから、「いい収穫があったならば、どのようなものであれ、初めての収穫を教会に持って行き (una vez cosechada alguien producto debemos llevar las primicias a la Santa Iglesia)、そのような収穫があったことに対して、神に感謝する (para agradecerle a dios su apoyo al tener una buena cosecha)」と語られる。

(3) ミルパ

ミルパは「日々の暮らしの食べ物を収穫するところ (el alimento de todos los días de nuestra vida)」であり、「食べ物の基礎」であるトウモロコシを収穫するところである。

「ミルパがあるから自分たちは生きていける (de ahí vivimos)」のである。そして、ミルパでの収穫は「神の祝福がなければありえない (sin la bendición de dios la cosecha no se logra.)」と語られる。科学技術が進展しているけれども、「父なる神の恩寵のおかげで、神が自分たちの収穫を援けてくださっているから、食べ物が与えられる (con la gracia de nuestro señor nos ayuda con la cosecha con eso nos alimentamos)」のである。

この神の援けは「神が時節の恵みの雨を降らせてくださる (si diosito permite una buena temporada de lluvia) ならば、それのおかげで今日もわたしたちは生きていくことができる」「そこにわたしたちが食べていけるようにトウモロコシの種を播くようにと、神がわたしたちのためにミルパを創ってくださったのだ (dios lo creo para nosotros para que sembremos la milpa y para comer)」のように語られる。

ミルパを耕し、そこで収穫があると、それを食べるのが通例である。が、収穫の一部を売って、他の食べ物を買う (venden también para comprar otros alimentos)」こともあるし、その「お金を貯める (haciendo nuestra milpa nos ahorramos dinero)」こともある。

(4) パルセーラ

パルセーラは井戸および灌漑施設をそなえることから、安定して働くことができる場所として

とらえられている。ミルパとくらべると、より多くの種類の作物、特に柑橘類と野菜類が播種できるので、一年中また長期にわたって安定して生産できる、つまり、商業活動ができるところと語られるのである。ここでの労働によって得られる金銭は生活に必要な物資と交換されるからである。

パルセーラは柑橘類が獲れるところであるが、食べ物として「トウモロコシのようにどうしても不可欠ということではない (no están muy indispensable para la alimentación como es como el maíz)」。柑橘類を売って「家族を支えるための経済的な足し (ayuda económicamente para el sustento familiar)」にするのである。

パルセーラを得るためには労力と経費がかかるが、いったん入手するとミルパでのトウモロコシ、豆類の収穫を日々の糧に、パルセーラでの収穫物を換金して日常の生活費にあてることができるのである。「パルセーラがないと、そして仕事がないと、本当に困る (sin parcela y sin profesión es muy difícil)」と語られる。他に仕事がなくとも、パルセーラを持っていれば、「靴や衣服その他のものが買える」。

現在、安定した仕事がなく、パルセーラを持っていない人は、「パルセーラを持ってそこで働きたい (me gustaría tenerlo y trabajarla)」と願う。パルセーラでは果物や野菜が獲れるので、「それだけたくさん働かなくてはならない (más trabajo cosechar estos productos)」。また、パルセーラでは「ミルパよりもたくさんのお金が手に入るので経済の足しになります (se recompense económicamente ya que la parcela produce más ganancias)」つまり、柑橘類を売って「家族を支えるための経済的な足し (ayuda económicamente para el sustento familiar)」「家計を賄う足し (para vender para conseguir el gasto familiar)」にするのである。ミルパで獲れた「トウモロコシを売って少しお金を貯めながら、パルセーラで働くことができる (ahorrando un poco de dinero con ganancias de la venta de maíz se puede trabajar la parcela)」ことから、ミルパだけで働くよりもしばしばたくさんのお金が入り暮らしもよくなるという。

(5) 学校

学校は子どもたちの教育のための源泉 (lago fundamental) で、子どもたちが読み書きを学び「よりよい将来を築いていく (tendrán un mejor futuro)」ところである。

読み書きができないと『聖書』を読むことができない。『『聖書』や秘蹟 (los sacramentos) がいうとおりに従うべきである (tenemos que obedecer así como nos dice la Biblia)」ことから、神のことばを聴きに、日曜日ごとにミサに行き、「キリスト教の教えを理解しなければならない (hay que entender lo que dice el evangelio)」。そして「キリストの教えがわたしたちにいうことを分かち合う (compartir lo que nos dice el evangelio)」べきである。この意味で学校は教会とは異なると語られる。学校で学ぶことと教会で学ぶことは異なる。教会はキリスト教の教育のためにあり、「宗教について学び続けなければならない (la iglesia es la educación cristiana que debemos

seguir en cuanto a la religión)」。他方、学校は例えば教員や医者として仕事を得るためにさまざまなことを修得するための教育をすることで語られる。

学校は法を教え、わたしたちの権利を教え、社会におけるわたしたちの立場を教えるところである。

学校では、教会におけると同じように、いい教育方法をとらなければならない。こどもの学ぶ動機を育てていかなければならない。両親は子どもたちの注意が教育に向けられるように子どもたちの生活態度を規則正しく保つべきである。したがって、学校に支援をし、教えるのが上手な教員を探して育てることが大事である。両親からの支援と行政からの支援をもっと増やし、子どもたちが「学校はすばらしいところだとわかるように (se vea bonito)」するところと考えられている。なぜならば、何も知らない教員 (maestros que no saben nada) がいるから。「教員が自分の時間を十分に学校に捧げていない (os maestros no le dedican bien su tiempo)」現状があるので、教員が学校の教育に打ち込むように気をつけてよく見ていなければならない (nosotros lo tenemos que ver)。また、「母親が子どもたちへの教育を大切と考えていない (las mamás no le dan importancia en su educación)」ので、学校に行かない子どもたちを支援し、経済的な援助を得られない子どもたちを支援しなければならない。子どもたちは「経済的な理由から家の手伝いをしなければならない (el niño necesita trabajar para ayudar a la familia económicamente)」ので、みんなが学校に通えるわけではないという。

学校を「いつも清掃して綺麗にし (tiene la escuela siempre limpia)」、そこにコンピュータを設置することも必要である。なぜならば、現代は科学技術の時代であるから。

成人にとっても学校は大切であるが、子どもたちにはもっと大切と語られる。大人よりも「恵まれた暮らしができるように (tengan una vida mejor que la nuestra)、困ったことがたくさん起こらないように (no pasen tantas necesidades)」学校を活用することが望ましいという。また、「学校を大切と思わないし、勉強もしない (otras no le dan importancia a la escuela y no estudian)」人たちがいるとの指摘もある。

学校ではどのようによく生きるかは教えてくれないから、教会へ行くべきだと語る人もいる。

(6) 広場

広場は経済的援助を申請するところである。そこには村長と警察がいるだけで「何も教えてはくれない (no te enseña nada)」。広場は家族の者の健康と何か必要なものを請い願うところである。つまり、行政が自分たちのために何かあることを解決してくれるように頼みに行くところである。「村長の証明や制裁を必要とするいろいろな問題を解決し (para resolver problemas)」、「村が申し分なく平和であり、住民の間に尊敬の念が育まれるように (para que el pueblo viva en perfecta tranquilidad y haya respeto entre sus habitantes)」。

自己本位を捨てて村のために善いことをするところである。広場は村のために善いことをなすことによって、あるいはまた村に割り当てられた財源を公正に運用することによって、「自分の自己本位が親切に変わることを証明する (demuestra su egoísmo a su bondad)」ところと語られる。また、広場は法を尊重し裁判を行うところであり、フィエスタと踊りをするところである。

広場は「どうしてもなくてはならないものではない(no es algo tan indispensable)」。そこは「俗世間である (el mundismo)」。経済的な機関があり、娯楽やいろいろなお祝いや活動をするところではあるが、「それだけで、それ以上は何もない」「精神的な意味で見べきものは何もない (no tiene nada que ver con lo espiritual)」「他のことのように重要な意味は持っていない (no tiene tanta importancia como los otros)」のように語られる。

役場は「村で一番権威のあるところ (donde se encuentra la máxima autoridad de un pueblo)」であり、そこでの義務は「貧しい家族に経済的な支援を与えること (darle una ayuda económica a las familias muy humildes)」である。しかし、「貧しい人たちのことは忘れて(olvidandose de los pobres)」不正な政治が行われる。

おわりに

ここで取りあつかったのは個別の断面での空間感覚の一部である。個別具体的な内容の全体像をとらえたが、そこには空間感覚を分析するためのモデルおよび作業仮説に関する内容を見出すことができる。

祭壇、教会への回答が宗教的理念によって色づけられていることは予想することができる。空間分析モデルにしたがって言い表すと、空間が神や神聖な存在に関する場所を中心としてとらえられ、その場面では太古の要素をもつことばや象徴によって中心と外周というような濃淡をともなった色づけがなされるという仮説である。

それらの空間はカトリックである人びとによる空間の意味づけの中心に位置していて、かつ開かれている。祭壇と教会への意味づけを対比すると教会により重点があり、教会はすべての人のために、祭壇は家族のためにと語られ、祭壇は聖像との関係がより強くなる。祭壇は神がいることを想い出させてくれるところであり、子どもたちに宗教内教育 (inner education) を行うところである。

祭壇は聖像を置き、灯と供え物を捧げ、聖像に対して祈るところである。自分の聖像を持ち、各家の聖像を持つ。そして、特別な場合に、祭壇の前に集まって祈る。子どもたちが小さい頃から「神がすべてを与えてくださっていること、わたしたちにすべてを与えてくださっていることに感謝するために神を賛美しなければならないこと」を学ぶところである。教会は「神の家」であり、神に祈り、神と出会うところである。すべてのもののうちで最も重要なところである。それゆえに教会には駆けつけなければならない。教会に入って祈り、自分の問題を神に打ち明けるので、教

会にいとすべての悪から自由になることができ、気持ちがよくなる。特に、ミサは神のことばを聴き、神の言うことを分かり、どのように生きていかなければならないかを理解することである。この意味で、教会は精神的に育まれるところであり、保護されているように、平和の中にあるように感じる場所である。教会は神に会い精神的に立ち直るための第一の場所という。

マニの人びとは個や集団を超えて祝祭や行事に積極的に参加し、それらの意味を理解するとともに、家族や村境などを超えたつながりや連携を求めようとする。特に、祝祭や行事の行われる教会および*kiwic* (村の中心) はより古い要素 (マヤ的な要素) と古い要素 (カトリック的な要素) の両方で多面的な意味づけがされる場所である。

ミルパは食べ物基礎であるトウモロコシを収穫する場所であるが、その収穫は神の祝福としてとらえられている。神の祝福がなければミルパに収穫はない。雨を降らせるのも神である、ミルパにトウモロコシを育てるのも神である、それゆえにわたしたちが生きていくことができるのも神の祝福があつてのことである。神がミルパを創ったのである。科学技術が発展してもこの事実は変わらないと語られる。現実を宗教的理念が意味づけている一面である。場所に関してさまざまな現実が語られるが、それらの現実には神聖な存在に関係する理念に結びつけられて立て直される (adjust) という仮説に関係する事実である。場所は閉じているというよりも開かれたところとして意味づけられ、私有よりも共有、所有権よりも使用権という意味づけが強まるという仮説に関係するのがミルパとパルセーラである。

パルセーラはミルパと異なる意味づけがされる。そこは柑橘類や野菜類が獲れる場所であるが、それらの収穫はトウモロコシのようにどうしてもなくてはならないというものではない。それゆえにミルパほど重要ではなく、家族を支える経済的な足しを得るための手段と意味づけられる。一方で、安定した仕事のない者にとってはパルセーラは牧場での労働や大工などの手慣れた替わる仕事として位置づけられている。

学校は子どもが学力の基礎を身につけ、それぞれの将来を築くための場所としてとらえられている。

学校で学ぶことは教会で学ぶこととは異なる。どのように生きていかなければならないかは学校では教えてくれない、教会がそれを教えると語られる。教育が二重に行われ、教会での学びがより重要であるという。それゆえに、学校での教育は教会でのそれと同じような方法で行われなければならない。

広場はどうしてもなくてはならないものではない。そこは「俗世間」と語られ、宗教的な意味づけがきわめて薄い。政治的な腐敗があり、貧しい人のことは忘れられているところなのである。

経済的なこと、娯楽、さまざまな祝祭や活動をする場所であり、「それだけで、それ以上は何もない」「精神的な意味で見るとべきものは何もない」と語られ、教会、祭壇、ミルパ、パルセーラ、学校などのように重要な意味は持っていないという。

注

1) 本稿で分析のために言及する事実に関しては次に掲げる論稿において詳述している。

中別府 温和

- 1985年 「メリダ周辺地域マニにおける「熱い」／「冷たい」二分法とメン（呪医＝祭司について）」
『南部メキシコ村落におけるカトリック系文化の研究（Ⅲ）』 pp. 339-377
- 1987年 「ユカタンの一村落マニにおけるメン（呪医＝祭司）と雨乞いの儀礼（cha'chac）について」
『南部メキシコ村落におけるカトリック系文化の研究（Ⅳ）』 pp. 225-254
- 1989年 「マニにおけるメン（呪医＝祭司）と儀礼慣習と擬制的親子関係（padrinazgo-compadrazgo）」
『南部メキシコ村落における宗教と法と現実』 pp. 129-150
- 1991年 「マヤ・ユカテカ地域の一村落マニにおける聖像と病気」
『比較文化研究』10輯 pp. 91-123
- 1993年 「マヤ・ユカテカの一村落マニにおける婚姻形態について—駆け落ち婚（pudz）の事例を中心に—」
『比較文化研究』15輯 pp. 123-149
- 1995年 「マヤ・ユカテカの一村落マニにおける儀礼的親子関係」『地域総合研究』5号 pp. 53-64
『マヤ・ユカテカの一村落マニにおける奇跡について（1）—メンの病気治療の事例を中心に—』
『比較文化研究』17輯 pp. 111-152
- 2000年 「マヤユカテカの一カトリック村落マニにおける祭壇と聖像について」
『西日本宗教学雑誌』第22号 pp. 15-26
- 2001年 「マヤユカテカの一カトリック村落マニにおける家族に関する一側面」
『西日本宗教学雑誌』第23号 pp. 39-51
- 2007年 「宗教の太古性と残存性に関する一考察—マヤ・カトリック村落マニにおける口頭伝承を材料として—」
『宮崎公立大学人文学部紀要』第15巻第1号 pp. 195-232
- 2008年 「メキシコ低地マヤ地域におけるカトリック的宗教文化統合の実証的研究—マヤ・ユカテカの一カトリック村落マニにおける奇跡を材料として（1）—」
『宮崎公立大学人文学部紀要』第16巻第1号 pp. 191-225
- 2009年 「メキシコ低地マヤ地域におけるカトリック的宗教文化統合の実証的研究—マヤ・ユカテカの一カトリック村落マニにおける奇跡を材料として（2）—」
『宮崎公立大学人文学部紀要』第17巻第1号 pp. 137-172
- 2010年 「メキシコ低地マヤ地域におけるカトリック的宗教文化統合の実証的研究—マヤ・ユカテカの一カトリック村落マニにおける駆け落ち婚（pudz）を材料として—」
『宮崎公立大学人文学部紀要』第18巻第1号 pp. 101-130

- 2011年 「メキシコ低地マヤ地域におけるカトリック的宗教文化統合の実証的研究—マヤ・ユカテカのカトリック村落マニの空間感覚分析のための序論的考察—」
『宮崎公立大学人文学部紀要』第19巻第1号 pp. 79-106
- 2012年 「メキシコ低地マヤ地域におけるカトリック的宗教文化統合の実証的研究—マヤ・ユカテカのカトリック村落マニの空間感覚分析のための序論的考察（2）—」
『宮崎公立大学人文学部紀要』第20巻第1号 pp. 73-108

Harukazu NAKABEPPU

- 1996 *The Structure and Function of Ritual Kinship in a Maya Yucatecan Catholic Community, MANI.*
Bulletin of the Center for Regional Studies. Vol.6 pp.77-96
- 2000 *Marriage Form in a Mayayucatecan Catholic Community, Mani — with special reference to Pudz—*
Bulletin of Miyazaki Municipal University Faculty of Humanities.
Vol.8 No.1 pp.205-220
- 2001 *Some Aspects of Social Structure of a Mayayucatecan Catholic Community, Mani.*
Bulletin of Miyazaki Municipal University Faculty of Humanities.
Vol.9 No.1 pp.137-152
- 2002 *Ritual Kinship and Ejido in a Mayayucatecan Catholic Community Mani.*
Bulletin of Miyazaki Municipal University Faculty of Humanities.
Vol.10 No.1 pp.217-233
- 2008 *Some Aspects of Family Structure of a Mayayucatecan Catholic Community, Mani.*
Bulletin of Miyazaki Municipal University Faculty of Humanities.
Vol.16 No.1 pp.227-248
- 2009 *Some Aspects of Social Structure of a Mayayucateca Catholic Community, Mani*
Bulletin of Miyazaki Municipal University Faculty of Humanities.
Vol.17 No.1 pp.173-190
- 2010 *Religious Attitudes Towards Altars and Images in a Maya-yucatecan Catholic Community, Mani*
Bulletin of Miyazaki Municipal University Faculty of Humanities.
Vol.18 No.1 pp.131-143
- 2011 *An experimental method for the study of time perception at the individual level—with reference to a case study in a Catholic community Mani, Yucatan, Mexico—*
Bulletin of Miyazaki Municipal University Faculty of Humanities.

Vol.19 No.1 pp.107-124

2012 *An experimental method for the study of time perception at the individual level—with reference to a case study in a Catholic community Mani, Yucatan, Mexico— (2)*
Bulletin of Miyazaki Municipal University Faculty of Humanities.

Vol.20 No.1 pp.109-144

なお、マヤの共有地ならびに集落形態に関しては、次の考古学・歴史学の史資料を参照されたい。

Wendy Ashmore edited

1981 *Lowland Maya Settlement Patterns.*
University of New Mexico Press. pp.361-364

Joyce Marcus

1973 *Territorial Organization of the Lowland Classic Maya.*
Science. Vol.180. pp.911-916

Michael D.Coe

1965 *A Model of Ancient Community Structure in the Maya Lowland.*
Southwestern Journal of Anthropology. Vol.21., No.2 pp.97-114
1987 *The Maya.* Thames and Hudson. p.164

Frauke J.Riese

1981 *Indianische Landrechte In Yukatan Um Die Mitte Des 16.Jahrhunderts.*
Hamburg. ss.1-222.

R.E.W Adams and Woodruff D.Smith

1981 *Feudal Models for Classic Maya Civilization.*
University of New Mexico Press. pp.335-349.

Richard A.Thompson

1974 *The Winds of Tomorrow.*
The University of Chicago Press. pp.22-35.

1974 *Aires de Progreso.* INI.Mexico. pp.37-52

2) Leach, E.R.

1964 *Anthropological aspects of language: animal categories and verbal abuse* (1964).
in E.H.Lenneberg(ed), *New Directions in the study of Language.* Cambridge.

pp. 23-63

3) Leach, E.R.

1976 *Culture and communication*. Cambridge University Press. pp.33-36

